

EXPARTNER®

マルチバンドレシーバー

HR-500

取扱説明書 / 保証書(裏面)



このたびは、ユピテルのマルチバンド
レシーバーをお買い上げいただきまし
て、まことにありがとうございます。

⚠ 注意

ご使用前に、この取扱説明書をよくお読み
のうえ、正しくお使いください。
なお、お読みになられたあとも、大切に保管
してください。

情報のメインストリートをカバー

本機の受信範囲は、108MHz ～ 170MHz、300MHz ～ 470MHz、806MHz ～ 1000MHz。情報のメインストリートをFM、AMの受信モードでカバー。周波数ステップも5kHz、6.25kHz、10kHz、12.5kHz、25kHzから選択できます。

周波数ステップや受信モードを自動設定

周波数ステップまたは受信モード選択時に[AUTO]にしておけば、受信周波数に応じて、最適な周波数ステップや受信モードが自動的に設定されます。
※工場出荷時は【AUTO】に設定されています。

10バンドサーチ機能

航空無線、アマチュア無線、消防・救急・防災無線からパーソナル無線まで、主要10バンドのデータがあらかじめ登録されていますので、周波数を調べずに簡単に受信できます。また、この10バンドは登録内容を変更できます。

盗聴発見機能

盗聴器の電波を探すことができます。使用されている可能性の高い無線式盗聴器の周波数(234チャンネル)があらかじめ登録されております。
本機はこの234チャンネルを自動的に探し受信する受信モードと、近くに設置された無線式盗聴器のおおよその存在場所を探すことができる発見モード、さらには、その場所を特定することができるアラームモードを備えています。(無線式盗聴器の探しかた 20 ページ)
※234チャンネルの内容は変更できません。

500チャンネルメモリ機能

受信したい周波数を最大500チャンネルまで登録できる、大容量のチャンネルメモリ機能。さらに、そのチャンネルメモリを効率良く受信するスキャン機能(メモリスキャン/バンクスキャン)を備えています。

高速スキャン/サーチ機能

スキャン/サーチスピードは、1秒間に最大で30チャンネル/30ステップと高速です。

10チャンネルのプライオリティメモリ

10チャンネルの豊富なプライオリティメモリにより、他の周波数を受信中でも、大事な電波を逃さず受信できます。

秘話解読機能

音声反転方式の秘話通信を通常音声に戻して受信できます。(41 ページ)

デュプレックス受信機能

2つの周波数で交互に交信している無線局を受信する場合、スムーズに周波数を切り替えることができます。(40 ページ)

どこでも使える3電源方式

市販の単3形アルカリ乾電池での携帯使用、付属のACアダプターによる家庭用電源での使用、別売のシガープラグコード(12Vシガーライターソケット使用)による車載使用ができます。(13 ページ)

クローン機能

メモリ内容を他のHR-500にコピーすることができます。(45 ページ)

特 長	2
目 次	3
■はじめに	4
安全上のご注意	4
使用上のご注意	7
各部の名称とはたらき	8
付属品の確認と取り付け	12
電源について	13
■基本となる操作	14
使用する際の基本	14
・準備	14
・聞き取りやすくする(モニター機能)	14
・数字キーによる数値入力	15
・周波数の変更や訂正の方法	15
■用語と動作	16
動作モードと主な受信方法(VFOモードとステップ、受信モード)	16
・VFOモードとは	16
・サーチモードとは	17
動作モードと主な受信方法(チャンネルメモリとスキャン)	18
・スキャンとは	18
■まずは使ってみよう	19
簡単な受信方法	19
・あらかじめメモリされている周波数で探す	19
・あらかじめ登録されている周波数帯で探す	19
無線式盗聴器の探しかた	20
・盗聴周波数を探す<盗聴器周波数スキャン>	20
・盗聴器を探す<盗聴波発見モード>	21
・盗聴器を発見する<盗聴波発見アラームモード>	21
・1 室内に仕掛けられた盗聴器を探す	22
・2 電話機に仕掛けられた盗聴器を探す	22
・3 盗聴器が仕掛けられている可能性があるときには	23
・4 盗聴器が仕掛けられている場所を探す	23
■選局する	24
VFOモードで受信する	24
・VFOモードにする	24
・周波数ステップと受信モードを選択する(AUTOにする)	24
・周波数を入力する	25
・ダイヤルツマミによる選局	25
・△キーまたは▽キーによる選局	25
■サーチモード	26
VFOサーチで受信する	26
・VFOサーチする	26
・サーチの方向を変える	26
サーチパス登録	27
・サーチパスに登録する	27
・サーチパス登録を読み出す<サーチパスリード>	27
・サーチパス登録を解除する	28
バンドサーチで受信する	29
・バンドサーチする<バンド指定サーチ>	29
・バンドの初期登録内容	29
サーチバンドの内容を変更する(バンドライト)	30

■スキャンモード

スキャン	31
・全てのチャンネルメモリをスキャンする<全チャンネルスキャン>	31
・特定のメモリチャンネルをスキャンする<バンク指定スキャン>	31
・スキャンの方向を変える	32
スキャンパス登録	33
・スキャンパスに登録する	33
・スキャンパス登録を解除する	33

■チャンネルメモリ登録

チャンネルメモリ登録	34
・チャンネルメモリに登録する<チャンネルメモリライト>	34
・チャンネルメモリを読み出す<チャンネルメモリリード>	35
・チャンネルメモリを読み出して削除する	35
・チャンネルメモリの内容をVFOモードへコピーする(メモリVFO)	36
プライオリティ機能	37
・プライオリティチャンネルに周波数を登録する	37
・プライオリティ機能を使う	37

■周波数ステップの変更

周波数ステップを変更する	38
--------------------	----

■受信モードの変更

受信モードを変更する	39
------------------	----

■その他の機能

デュプレックス	40
・デュプレックスモードに設定する	40
・デュプレックス交信を受信する	40
音声反転の秘話交信を聞く(秘話解読機能)	41
・秘話解読機能を使用する	41
・秘話解読機能を解除する	41
サーチモードやスキャンの付加機能	42
・スキップ機能	42
・オートメモリライト機能	42
便利な機能を使う	43
・ランプ機能	43
・ビープ音	43
・キーロック機能	44
・アッテネーター機能	44
・クローン機能	45

■知っておきたいこと

初期設定	46
・本体初期化について	46
チャンネルメモリリスト	47
操作早見表	53
・1 まずは使ってみよう	53
・2 選局する	53
・3 サーチモード	54
・4 スキャンモード	56
・5 チャンネルメモリ登録	57
・6 周波数ステップの変更	57
・7 受信モードの変更	57
・8 その他の機能	58
故障かな?と思ったら	60
仕 様	61
アフターサービスについて	62
アフターサービス等についてご不明の点は	62

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
ここに記載された注意事項は、製品を正しくお使いいただき、使用するかたへの危害や損害を未然に防止するためのものです。安全に関する重大な内容ですので、必ず守ってください。
また、注意事項は危害や損害の大きさを明確にするために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」、「注意」の2つに分けています。

絵表示について

△の記号は注意を促す内容であることを告げるものです。

○の記号は禁止の行為であることを告げるものです。

●の記号は行為を強制したり、指示を告げるものです。

警告 警告を無視した取り扱いをすると、死亡したり、重傷を負う可能性があります。

○ 水をつけたり、水をかけない。また、ぬれた手で操作しない
火災や感電、故障の原因となります。

○ 風呂などで使用しない。また、ぬれた手で電源を抜き差ししない
感電の原因となります。

○ 表示された電源電圧以外では使用しない
火災や感電、故障の原因となります。

○ 電源コードを傷つけたり、無理に曲げたり、加工しない。また、電源コードが傷んだら使用しない
感電やショートによる発火の原因となります。

○ 電源に接続する場合に分岐やタコ足配線をしていない
異常過熱や発火、故障の原因となります。また、別売のシガープラグコードでカー電源に接続する場合は、極性にご注意ください。本機はマイナスアース車専用です。

! ACアダプターやシガープラグコードの差し込みは、確実に
接触不良を起こして、火災の原因となります。

! ACアダプターやシガープラグコードの差し込み部分のホコリをよく拭く
接触不良を起こして、火災の原因となります。

○ ACアダプターやシガープラグコードは付属または指定のもの以外
は使用しない
火災や感電、故障の原因となります。

警告 警告を無視した取り扱いをすると、死亡したり、重傷を負う可能性があります。

○ 穴やすき間にピンや針金などの金属を入れない
火災や感電、故障の原因となります。

○ 機器本体および付属品を改造しない
火災や感電、故障の原因となります。

! 万一、破損した場合は、すぐに使用を中止する
そのまま使用すると火災や感電、故障の原因となります。

! 雷が鳴りだしたら使用を中止する
感電の原因となります。

○ サービスマン以外の人は、絶対に機器本体および付属品を分解したり、修理しない
感電や故障の原因となります。内部の点検や調整、修理は販売店にご依頼ください。

○ 運転中は絶対に操作しない
わき見運転は重大事故の原因となります。

! 自動車で使用する場合、運転の妨げにならない場所、また、自動車の機能（ブレーキ、ハンドル等）の妨げにならない場所に取り付ける
誤った取り付けは、交通事故の原因となります。

○ 自動車で使用する場合、助手席エアバックの近くに置いたり、配線をしない
万一のとき、動作したエアバックで本体が飛ばされ、事故やケガの原因となります。また、電源コードが妨げとなり、エアバックが正常に動作しないことがあります。

○ 煙が出ている、変な臭いがするなど、異常な状態のまま使用しない
発火の恐れがあります。すぐにACアダプターやシガープラグコードを抜いて、販売店に修理をご依頼ください。

⚠ 注意 注意を無視した取り扱いをすると、傷害や物的損害をこうむる可能性があります。

- 
電源コードを熱器具に近づけない
 コードの被覆が溶けて、火災や感電の原因となります。
- 
不安定な場所や振動、衝撃の多い場所に置かない
 落ちたり、倒れたりして、ケガや故障の原因となります。
- 
電源を抜くときは、電源コードを引っ張らない
 コードに傷がついて、感電やショートによる発火の原因となります。
- 
移動させるときは、AC アダプターやシガープラグコードを外す
 コードに傷がつき、火災や感電の原因となります。
- 
電池を入れるときは、極性に注意し、指示通り入れる
 間違えて入れると、電池の破裂や液漏れにより、火災やケガ、周囲を汚損する原因となります。
- 
指定以外の電池は使用しない、また、古い電池を混ぜて使用しない
 電池の破裂や液漏れにより、火災やケガ、周囲を汚損する原因となります。
- 
使用済みの電池を火中に投げ入れない
 爆発して火災や火傷の原因となります。
- 
お手入れの際は、AC アダプターやシガープラグコードを外す
 感電の原因となります。
- 
長時間で使用にならないときは、AC アダプターやシガープラグコードを外す
 絶縁劣化による感電や、漏電火災の原因となります。
- 
長時間で使用にならないときは、中の電池を抜く
 液漏れにより、周囲を汚損する原因となります。
- 
イヤホンを使用するときは、音量に注意する
 突然の大きな音で耳を痛める恐れがあります。
- 
旅客用飛行機や新幹線の中、空港敷地内では使用しない
 計器に異常を与える可能性があります。
- 
病院の中では使用しない
 医療用電気機器に電波による影響を与える可能性があります。医療機器の近くでは電源を切り、絶対に使用しないでください。
- 
ベルトクリップは確実に取り付けてください
 落下によるケガ、本体の破損の原因となることがあります。

取り扱いについて

- 本機が汚れたときは、柔らかい布などで拭いてください。ポリエステルなどの静電気が起きやすいもの、ベンジンやシンナー、化学ぞうきん、洗剤は使用しないでください。



- 本機は広帯域受信機ですので、受信機内部の発振（スプリアス）により受信できなかったり、雑音が発生する周波数があります。また、テレビやラジオなどの近くで使用した場合には、影響を与えることがあります。
- 他の無線機やテレビ、ラジオ、パソコン等のデジタル機器の近く、車内などでは雑音が入る場合があります。
- 次のような場所での使用や放置はしないでください。
 - ・直射日光の当たる場所や暖房器具の近く、あるいは炎天下の自動車内など温度の高くなる場所
 - ・湿度の高い場所や風通しの悪い場所
 - ・ホコリや油煙の多い場所
 - ・非常に温度が低い場所

電源について

- アルカリ電池の連続使用時間は、約 17 時間（ランプオフ、音量中間のとき）です。（連続使用時間は使用状況や設定、アルカリ乾電池の種類により変化します）

無線局について

- 一部の機密を要する無線では、音声として聴くことのできない通信方式（デジタル通信など）が採用されています。
- 業務用の通信は必要な場合のみ短時間での交信となります。TV やラジオ放送と異なり、常に送信が行われているわけではありません。

本機の故障や不具合、修理によるデータ消去等により生じた損害や付随的損失について、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

登録内容のバックアップについて

- 本体の電源ボタンで電源を切ると、そのときの状態が記憶されます。本体の電源を入れたまま外部電源の抜き差しや、電池の出し入れをすると、最後の状態は記憶されず、次に電源を入れたときは、初期設定状態から始まります。

アンテナについて

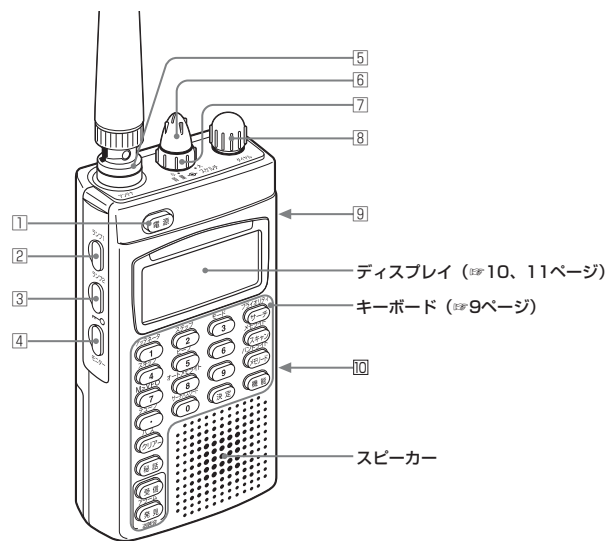
- 受信状況は、ご使用になる場所やアンテナによって変化します。
- ご使用になる場所やアンテナによってはテレビ放送などの強い電波の影響を受けて良好な受信ができないことがあります。
- 付属のフレキシブルアンテナ以外に市販のアマチュア無線用のアンテナなども使用することができますが、その際は、目的とする周波数に合ったアンテナをご用意ください。使用されるアンテナ（増幅回路付外部アンテナなど）によっては混変調を起こしたり、受信状態を悪化させる場合があります。
- 本機のアンテナ端子は BNC 型、インピーダンスは 50 Ω です。

受信内容について

- お客様が受信した内容は、電波法上、第 3 者に漏らしたり、行動に移したりすることが禁止されています。
- デジタル方式での通信は、音声として聞くことができません。

万一、異常や不具合が起きたときは、すぐに使用を中止し、お買い上げの販売店、またはコビテルご相談窓口にご相談ください。

本 体



1 電源ボタン(電源)

電源の入/切ができます。

2 △/ランプ1キー(アップ/ランプ1キー)

周波数の移動やサーチ / スキャンの強制移動 (方向指定)などの操作ができます。
また機能キーに続けて押したときは、約 5 秒間ディスプレイとキーボードの照明が点灯します。

3 ▽/ランプ2キー(ダウン/ランプ2キー)

△キーと逆方向のはたらきをします。
また機能キーに続けて押したときは、ディスプレイとキーボードの照明を常時点灯させます。

4 モニター/Ⓜo キー(モニター/ロック)

受信信号が弱く、音声途切れるときなどに聞き取りやすくします。また、デュープレックス機能設定時は周波数の切り替えとして、機能キーに続けて押したときは、ロックキーとしてはたらきます。

5 アンテナ端子(アンテナ接続)

アンテナを接続します。
本機のアンテナ端子は BNC 型、インピーダンスは 50 Ω です。

6 音量ツマミ(音量調節)

右に回すと音量が大きくなり、左に回すと音量が小さくなります。

7 スケルチツマミ(スケルチ調整)

無信号時の“ザー”という雑音を消すことができます。受信信号を効率良く受信するために使います。

8 ダイアルツマミ(チューニング)

周波数やチャンネルメモリの移動、受信モードの切り替え、周波数ステップの切り替えなどができます。また、秘話解読機能をはたらかせたときは違うはたらきとなります。

9 イヤホン端子(外部スピーカー)

外部スピーカーやイヤホンを接続します。この端子に接続すると、本体のスピーカーからの音は出なくなります。

10 DC12V ジャック(外部電源)

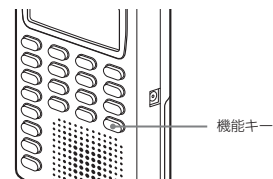
付属の AC アダプターや別売のシガープラグコードを接続します。

キーボード

操作キーは、直接キーを押したときと、機能キーとの組み合わせで 2 通りのはたらきをします。
直接キーを押したときにはキー表面の機能を実行できます。

機能キー

キーのはたらきを切り替えることができます。



■各キーを直接押したときの動作

プライオリティ
サーチ — ダイレクト入力モードの操作

操作キー	動 作
アッテネーター (1)	数字キー(1)としてはたらきます
ステップ (2)	数字キー(2)としてはたらきます
モード (3)	数字キー(3)としてはたらきます
スキップ (4)	数字キー(4)としてはたらきます
ビープ (5)	数字キー(5)としてはたらきます
メモリ VFO (6)	数字キー(6)としてはたらきます
オートメモリライト (7)	数字キー(7)としてはたらきます
サーチパスリード (8)	数字キー(8)としてはたらきます
プライオリティ (9)	数字キー(9)としてはたらきます
サーチ (0)	数字キー(0)としてはたらきます
プライオリティ (機能)	サーチ機能がはたらきます
メモリライト (機能)	スキャン機能がはたらきます
バンドリイト (機能)	メモリリードキーとしてはたらきます
機能 (機能)	機能キーとしてはたらきます
決定 (決定)	決定キーとしてはたらきます
チェン (チェン)	小数点キーとしてはたらきます
バス (バス)	クリアーキーとしてはたらきます
秘話 (秘話)	秘話解読キーとしてはたらきます
盗聴 (盗聴)	盗聴波受信モードキーとしてはたらきます
アラーム (アラーム)	盗聴波発見モードキーとしてはたらきます

■機能キーと組み合わせる機能

機能キーを押して [F.U.N.C.] が表示中に別のキーを押すことにより、キー上部に表示された機能を実行することができます。

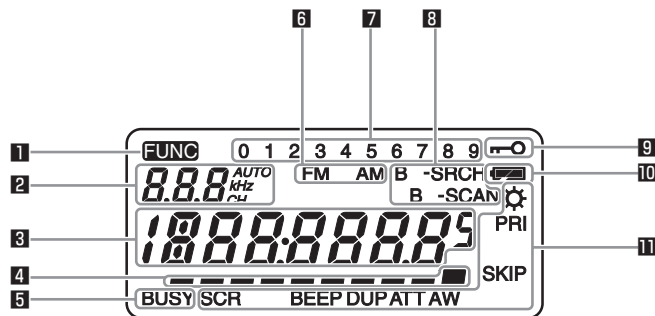
機能



プライオリティ — 機能モードの操作
サーチ

操作キー	機 能
機能 → アッテネーター (1)	アッテネーター
機能 → ステップ (2)	周波数ステップ
機能 → モード (3)	受信モード
機能 → スキップ (4)	スキップ
機能 → ビープ (5)	ビープ
機能 → メモリ VFO (6)	メモリ VFO
機能 → オートメモリライト (7)	オートメモリライト
機能 → サーチパスリード (8)	サーチパスリード
機能 → プライオリティ (9)	プライオリティ
機能 → メモリライト (機能)	メモリライト
機能 → バンドリイト (機能)	バンドリイト
機能 → デュープレックス (機能)	デュープレックス
機能 → バス (機能)	バス
機能 → 盗聴 (機能)	盗聴波発見アラームモード
機能 → ランプ 1 (機能)	ランプ 1
機能 → ランプ 2 (機能)	ランプ 2
機能 → ロック (機能)	ロック

ディスプレイ

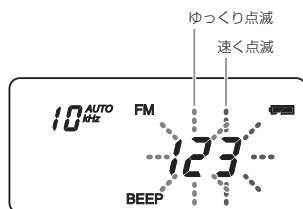


■周波数表示の見かた



■点滅表示の見かた

設定の状態により、ゆっくりした点滅と速い点滅で表示している場合があります。



1 ファンクション表示

機能キーを押すと約 10 秒間表示します。

2 周波数ステップ / チャンネルメモリ表示部

動作に応じて次の表示となります。

- ・周波数ステップを [kHz] で表示します。
- ・メモリチャンネルを [CH] で表示します。
- ・周波数ステップや受信モードをオートに設定したときは、[AUTO] を表示します。
- ・盗聴器周波数サーチ中は [bus] を表示します。
- ・プライオリティチャンネルを [P ch] で表示します。
- ・サーチパス周波数の読み出しでは [P] が点滅されます。

3 周波数表示部

周波数や入力中の数値などを表示します。

4 受信レベル(S メーター)表示部

受信している電波の強さを表示します。



5 BUSY 表示

モニターキーが押されているときや信号を受信したときなど、スケルチが開いているときに表示します。

6 受信モード表示

選択している受信モード（電波型式）を表示します。

7 バンド / バンクナンバー表示部

選択されているバンドや、バンクのナンバーなどを表示します。

8 動作モード表示

- サーチやスキャンなどの動作状態を表示します。
- ・[SRCH]：VFO サーチ(※26 ページ)
 - ・[B-SRCH]：バンドサーチ
＜バンド指定サーチ＞(※29 ページ)
 - ・[SCAN]：全てのチャンネルメモリをスキャンする
＜全チャンネルスキャン＞(※31 ページ)
 - ・[B-SCAN]：特定のメモリチャンネルをスキャンする
＜バンク指定スキャン＞(※31 ページ)

9 ロック表示

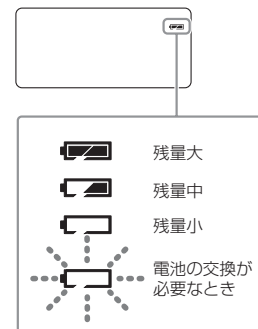
キーロックがはたらいていることを表示します。

10 バッテリー状態表示

電池の容量を 4 段階で表示します。

電池の残量表示について

本機は、電源 ON のとき、電池の残量を 4 段階で表示します。



- ・電池の残量が完全になくなった場合は、ディスプレイに何も表示されません。

11 設定状態表示部

機能の設定状態を表示します。

- ・[SCR]：秘話解読機能(※41 ページ)
- ・[BEEP]：ビーブ音(※43 ページ)
- ・[DUP]：デュープレックス(※40 ページ)
- ・[ATT]：アッテネーター機能(※44 ページ)
- ・[AW]：オートメモリライト機能(※42 ページ)
- ・[SKIP]：スキップ機能(※42 ページ)
- ・[PRI]：プライオリティ(※37 ページ)

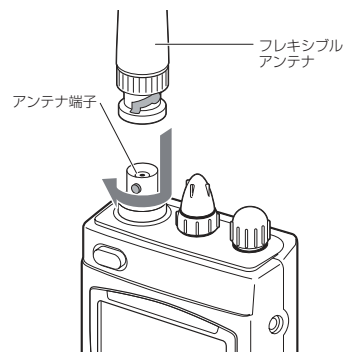
付属品リスト

ご使用の前に、付属品をご確認ください。

- フレキシブルアンテナ..... (1)
- ACアダプター..... (1)
- ベルトクリップ..... (1)
- 取扱説明書(保証書含む)..... (1)

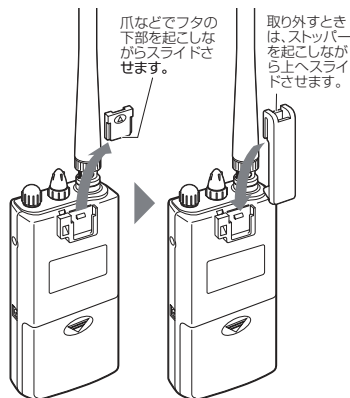
アンテナの取り付けかた

付属のフレキシブルアンテナの溝と、アンテナ端子の凸部を合わせて差し込み、軽い手応えがあるまで時計方向に回します。



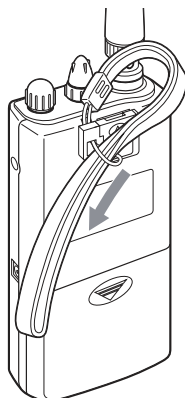
ベルトクリップの取り付けかた

ベルトクリップ取り付け部のフタを外し、図のように差し込みます。



ハンドストラップの取り付けかた

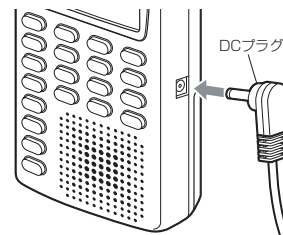
市販のハンドストラップを、図のように取り付けることができます。



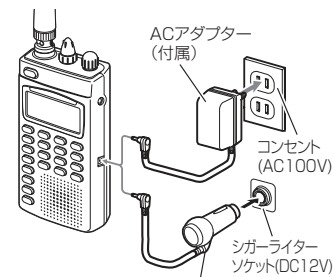
本機は、付属の AC アダプターや別売のシガープラグコードでの使用、市販の単 3 形アルカリ乾電池での携帯使用ができます。

外部電源で使う

- 1** DC12V ジャックに AC アダプターや別売のシガープラグコードの DC プラグを接続する
AC アダプターやシガープラグコードを接続するときは、必ず電源を切った状態で行ってください。



- 2** AC アダプターやシガープラグコードを、家庭用電源コンセント (AC100V) や車のシガーライターソケット (DC12V) に接続する



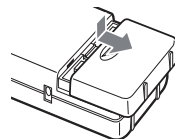
シガープラグコード(別売品 OP-5)

- ・AC アダプターやシガープラグコードは、付属または別売のもの以外は使用しないでください。
- ・別売のシガープラグコード(OP-5)は、DC12V マイナスアース車専用です。24V 車(大型トラック、バス等)では、使用できません。
- ・シガープラグ内部のヒューズが切れた場合は、新しいヒューズ (1A) と交換してください。また、交換してもすぐにヒューズが切れる場合は、使用を中止し、シガープラグコードを抜いてお買い上げの販売店、またはユビテルにご相談窓口にご相談ください。
- ・シガープラグ内部には、ヒューズとスプリングが入っています。ヒューズを交換するときは、部品の紛失に注意し、順序を合わせて入れ直してください。

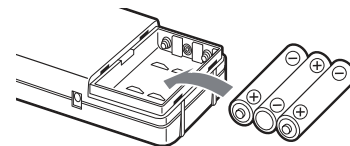
アルカリ電池で使う

連続使用時間：約 17 時間(音量中間、ランプ OFF 時)

- 1** 電池カバーを外す
電池をセットするときは、必ず電源を切った状態で行ってください。



- 2** 単 3 形電池 3 本を内部の指示にしたがってセットし、電池カバーを閉める



- ・種類の違う電池や古い電池などを混ぜて使用しないでください。
- ・液漏れによる汚損などを防ぐため、長時間使用しないときは、必ず電池を抜いてください。

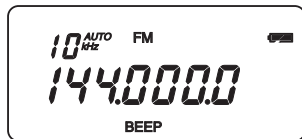
準備

1 電源を入れる

電源ボタンを押し続けると、電源が入ります。



- 購入後、初めて電源を入れたときは次のような表示となります。



- 電源を切るときも同様の操作です。

聞き取りやすくする(モニター機能)

受信信号が弱く音声が入り切れないときに使用します。

モニターキーを押す

モニターキーを押し続けている間、スケルチを解除します。



- 各種サーチ / スキャン中にモニターキーを押すと、押している間サーチ / スキャンが停止します。
- スケルチ調整中は、モニターキーを押さないでください。
- デュプレックス機能設定時 (P. 40 ページ) は、周波数切り替えとしてはたります。
- 盗聴波発見アラームモード中は、モニター機能は、無効となります。(P. 21 ページ)

2 音量を調整する

音量ツマミを回して調整します。

- 音量ツマミを右に回すと音量が大きくなり、左に回すと音量が小さくなります。



3 スケルチを調整する

BUSY の表示が消えるまでスケルチツマミを右に回します。

無信号時の "ザー" という雑音が出ているときや、ディスプレイの左下に BUSY が表示されているときは、BUSY 表示が消えるまでスケルチツマミを右に回します。



- スケルチツマミを右に回しすぎると弱い電波が受信できなくなり、左に回しすぎると雑音などを受信してしまいます。聞きたい電波に合わせて調整してください。

数字キーによる数値入力

数字キーを使って数値を入力することができます。

1 受信したい周波数を、上の位から順に入力する

数値キーや小数点キー (.) で入力します。入力途中の数字は点滅します。

- 10 秒以上、操作を中断した場合は、入力前の画面に戻ります。

2 決定キーを押す

入力が確定し、周波数が点滅から点灯に変わります。

- 入力可能な周波数範囲は 108MHz ~ 170MHz、300MHz ~ 470MHz、806MHz ~ 1000MHz です。入力された数字が本機の受信範囲以外の場合は "ピポポ" と鳴り、[Error] が一瞬表示され入力前の表示に戻ります。
- MHz は最大 4 桁まで入力できます。小数点キー (.) を押さずに 5 桁目を入力すると、はじめに入力した数値から無効になります。また、kHz と Hz は合わせて 5 桁まで入力できます。小数点キー (.) を押したあとに 6 桁目を入力すると "ピポポ" と鳴り、6 桁目は受け付けません。
- 入力された数値は、周波数ごとにあらかじめ設定されている周波数ステップ、受信モードなどの設定状況に合った数値に変更されて決定されます。
- オートモードのときは入力した周波数に適した周波数ステップと受信モードが自動的に設定されます。
- 周波数の入力中に約 10 秒以上操作が行われないと入力できず、操作前の表示に戻ります。

② 876.987654 MHz を入力した場合

入力キー	表 示
オートメモライト (8)	— — — — — 8 —
MxVFO (7)	— — — — — 8.7 —
デュプレックス (6)	— — — — — 87.6 —
チューン (5)	876. — — — —
オートメモライト (8)	876.9 — — —
MxVFO (7)	876.98 — — —
デュプレックス (6)	876.987.6 —
ビープ (5)	876.987.65
スキップ (4)	876.987.65
(エラー音が鳴り、受け付けられない)	
決定 (8)	876.987.5 —

周波数の変更や訂正の方法

周波数入力中に、桁を選んで数字を変更することができます。

1 クリアーキーを押す

下 1 桁が早く点滅します。

2 △キーまたは▽キーを押して、訂正する桁を選択する

早く点滅している桁が訂正できます。

3 正しい数字を入力する

数字キーやダイヤルツマミで正しい数字を入力します。

4 決定キーを押す

入力途中の状態に戻ります。続けて入力する場合は、次の数字を入力します。
・約 10 秒以上操作がないときは、操作前の表示に戻ります。

5 もう一度、決定キーを押す

入力が確定します。

入力例

① 345MHz を入力する場合

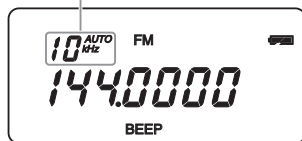
入力キー	表 示
モード (3)	— — — — — 3 —
スキップ (4)	— — — — — 3.4 —
ビープ (5)	— — — — — 34.5 —
決定 (8)	345.000.0

VFO モード(24 ページ)とは

選択している周波数ステップで、連続的に数字キーで周波数を変更できる動作状態です。

VFO モード時は、ディスプレイに周波数ステップが表示されます。

周波数ステップ表示



- 数字キーで周波数を入力した直後(25 ページ)や、サーチモード(26、29 ページ)を終了した状態に該当します。
- VFO モードでは、ダイヤルツマミや△/▽キーで連続して周波数を選局することができます。
- 購入後、初めて電源を入れたときは VFO モードとなります。

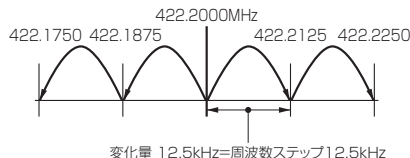
周波数ステップ

選局のときに、周波数を動かす変化量のことを周波数ステップといいます。

電波は混信を避けるため、周波数帯ごとに割り当て間隔が定められており、受信するときは、割り当てられた間隔に応じて選局を行う必要があります。

周波数ステップで [AUTO] を選択している場合、周波数帯に応じて自動的に最適な周波数に切り替わります。(24、38 ページ)

422.2MHzから、周波数ステップ12.5kHzで
ダイヤルツマミや△/▽キーを操作した場合



- 周波数ステップは、単にステップと呼ぶこともあります。

受信モード(電波型式)

音声などの信号を、どのような方式で電波にしているかは、周波数帯や目的によって異なります。

受信する周波数だけを合わせても、送信側と同じ受信モード(電波型式)に合わせないと、音声として聞くことはできません。本機では、航空無線で用いられる AM、業務無線等で使われている FM(ナロー FM)の2つの電波型式を備えています。

受信モードで [AUTO] を選択している場合、周波数帯に応じて自動的に最適な電波モードに切り替わります。(24、39 ページ)

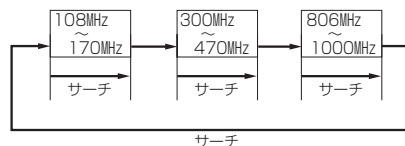
サーチモードとは

選択している周波数ステップで、周波数を変えながら、電波を探す機能です。サーチには、VFO サーチ、バンドサーチ、選択バンドサーチの3つの機能があります。

VFO サーチ(26 ページ)

受信範囲内(108MHz ~ 170MHz、300MHz ~ 470MHz、806MHz ~ 1000MHz)を、連続的に周波数を変えながら、自動で電波を探します。

電波を受信すると停止し、約2秒以上、受信できない状態が続くと、再びサーチが始まります。



バンドサーチ(29 ページ)

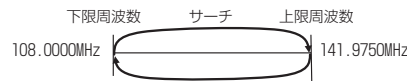
<バンド指定サーチ>

あらかじめ登録されている、上限と下限の周波数範囲内で電波を探します。

周波数そのものが不明な場合でも、おおよその周波数さえわかれば、バンドを指定し範囲内のサーチを行うことができます。

- バンドには、周波数の上限と下限、周波数ステップ、受信モードが登録されています。

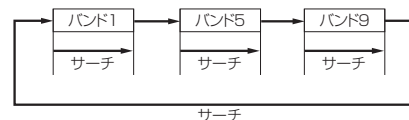
[バンド1 航空無線他 を選択時]



選択バンドサーチ

複数のバンドを指定し、バンドを順次切り替えて、電波を探すことができ、1つ目のバンドをサーチした後、2つ目のバンドをサーチするといったように、最大4つのバンドを順にサーチさせることができます。

[バンド1とバンド5、バンド9を選択時]



周波数や周波数ステップ、受信モードなどの情報を、チャンネル番号別にメモリさせることができます。チャンネル数は最大で 500ch(チャンネル)です。

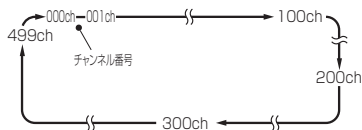
スキャンとは

登録してあるチャンネルメモリを順番に読み出し自動的に電波を探す(受信する)機能です。

スキャンには、連続スキャン、バンクスキャン、選択バンクスキャンの 3 つの機能があります。

全てのチャンネルメモリをスキャンする(※ 31 ページ)
＜全チャンネルスキャン＞

登録したすべてのチャンネルをチャンネル番号の小さい順に読み出し、自動的に電波を探します。



特定のメモリチャンネルをスキャンする(※ 31 ページ)
＜バンク指定スキャン＞

複数のチャンネルメモリを 1 つのバンクとしてグループ分けすることができ、指定したバンクに含まれているチャンネルメモリを番号順に読み出し、自動的に電波を探します。

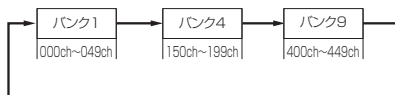
[バンク 1 消防・救急無線 選択時]



選択バンクスキャン

複数のバンクを指定し、バンクを順次切り替えて電波を探すことができ、1 つ目のバンクをスキャンした後、2 つ目のバンクをスキャンするといったように、最大 4 つのバンクを順にスキャンさせることができます。

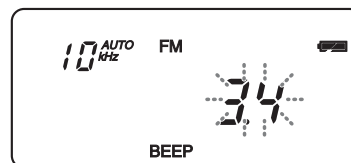
[バンク 1 とバンク 4、バンク 9 を選択時]



あらかじめメモリされている周波数で探す

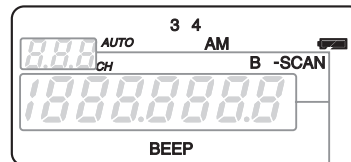
例：バンクスキャン(※ 31 ページ)で航空無線(航空・航空路管制)を受信する場合

- 1 電源を入れ、音量やスケルチを調整する(※ 14 ページ)
- 2 数字キーで ^{モード}3 と ^{スキップ}4 を押す
工場出荷時はバンク 3、4 に航空無線(航空・航空路管制)が登録されています。



工場出荷時に登録されているチャンネルメモリやバンクナンバー等は、「チャンネルメモリの初期登録内容」(※ 32 ページ)を参照してください。

3 スキャンキーを押す

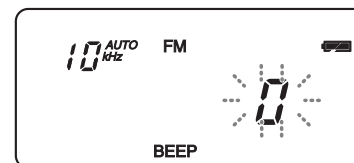


スキャン中：数値が変化します

あらかじめ登録されている周波数帯で探す

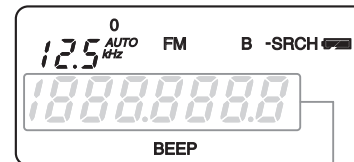
例：バンドサーチ(※ 29 ページ)でパーソナル無線を受信する場合

- 1 電源を入れ、音量やスケルチを調整する(※ 14 ページ)
- 2 数字キーで ^{サーチ(ロード)}0 を押す
工場出荷時はバンド 0 にパーソナル無線が登録されています。



工場出荷時に登録されているバンド内容やバンドナンバー等は「バンドの初期登録内容」(※ 29 ページ)を参照してください。

3 サーチキーを押す



サーチ中：数値が変化します

盗聴周波数を探す<盗聴器周波数スキャン>

本機には、無線式盗聴器で多く使用されている周波数を234ch(チャンネル)登録してあります。以下の操作で234chを順に読み出し、盗聴波を探することができます。

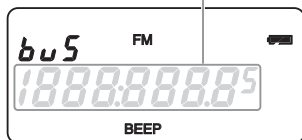
1 電源を入れ、音量やスケルチを調整する(※14ページ)

2 盗聴波受信モードキーを押す



[bus]が表示され、盗聴周波数スキャンが始まります。電波を受信するとスキャンを停止(受信)し、電波が2秒以上途切れると再びスキャンを始めます。

スキャン中: 数値が変化します。



- ・本機に登録されていない周波数が使用されている場合は、上記の操作で受信できません。
- ・正常な目的に使用されている無線局や、2次的に出てくる電波(ノイズ)もあり、受信したからといってすべてが盗聴器とは限りません。

3 探す方向を変える
ダイヤルツマミや△キー、▽キーを操作します。

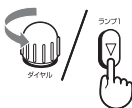
周波数の大きい方へ探す

ダイヤルツマミを右に回す
または△キーを押す



周波数の小さい方へ探す

ダイヤルツマミを左に回す
または▽キーを押す



- ・スキャンが停止中(受信)に、ダイヤルツマミや△キー、▽キーを操作すると、方向が指定され、再びスキャンが始まります。
- ・不要な盗聴器周波数は、パス登録することで、受信できなくすることができます。パス登録する場合は、スキャンが停止中に、機能キーを押した後、クリアキーを押してください。(※33ページ)
- ・盗聴器周波数スキャン中のパス登録は、盗聴器周波数スキャンを終了すると、解除され、次の盗聴器周波数スキャンではパスされません。
- ・パス登録を読み出すことはできません。

4 終了する
終了するときは、もう一度盗聴波受信モードキーを押してください。[bus]の表示が消え、盗聴波受信モードキーが押される前の状態に戻ります。

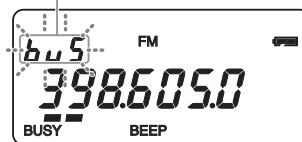
盗聴器を探す<盗聴波発見モード>

盗聴器周波数スキャンで電波を受信し、スキャンが停止している際に以下の操作をすることで、おおよその盗聴波の発信源を探することができます。

1 盗聴波発見モードキーを押す



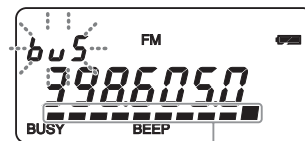
発見モード中:[bus]が点滅します



- ・盗聴波発見モードキーを押すと、その周波数で継続受信(次のスキャンへの移行を停止)します。また、受信電波の信号レベルの自動減衰機能がはたらきます。

2 おおよその発信源を探す

盗聴波発見モード中に家庭電源のコンセントや壁、置き時計など盗聴器が仕掛けられている可能性のある器具や家具に近づけながら受信場所を移動し、受信レベル(Sメーター)の強く振れる場所を探します。



受信レベル

- ・盗聴器周波数スキャンに戻る場合には、再度、盗聴波受信モードキーを押します。

■ 受信レベル(Sメーター)の見かた



盗聴器を発見する<盗聴波発見アラームモード>

盗聴波発見モードで、おおよその電波の発信源を探した後、以下の操作で、無線式盗聴器が仕掛けられている場所を特定できます。盗聴器周波数スキャンで、スキャン停止中でも操作できます。

1 機能キー押す

【FUNC】が表示されます。

2 盗聴波発見モードキーを押す

- ・盗聴波発見アラームモードになります。
- ・盗聴波発見アラームモードになると、受信信号の強度によりアラームが鳴ります。
- ・盗聴波発見アラームモード中は信号レベルの自動減衰機能がはたらきます。

3 無線式盗聴器(発信源)を探す

盗聴波発見モードで、受信レベル(Sメーター)の強く振れた場所・箇所にアンテナを近づけ、強くアラームが鳴る方向、箇所(発信源)を特定します。



盗聴波発見アラームモードを解除するときは、もう一度、盗聴波受信モードキーを押します。盗聴器周波数スキャンに戻ります。

- ・無線を使っていない機器(蛍光灯、コンピューター、テレビ、ファックス、電子レンジなど)からも副次的な電波が出ています。あらかじめ調査する部屋の中で音楽などを鳴らした状態で盗聴器周波数スキャンを行い、受信内容(無線式盗聴器が仕掛けられている可能性)を確認してから発信源を探すのが有効です。
- ・盗聴器の発見には専門知識が必要です。盗聴器が仕掛けられている可能性があるときは、専門の調査会社にご依頼ください。

具体的な無線式盗聴器の探し方については、次のページをご覧ください。

1 室内に仕掛けられた盗聴器を探す

- 1 調査する部屋の中で、CDなどの音楽を再生し、室内に常時音が出ている状況にする
- 2 本機で盗聴器周波数をスキャンする
「盗聴器周波数を探す」〈盗聴器周波数スキャン〉(P.20 ページ)をご覧ください。
- 3 スキャンが停止して電波を受信したときには、本機のスピーカーから出ている音と、室内の音楽が一致しているかを確認する
- 4 室内の音楽を変えてみて、本機のスピーカーから出ている音が変わるかを確かめる



※ 盗聴器周波数のすべてのチャンネルをスキャンし、上記の確認を行います。(パス登録を使うと効率的な確認ができます)

<アドバイス>

室内の音が本機のスピーカーから聞こえる場合には、無線式盗聴器が仕掛けられている可能性があります。また、部屋の中で再生している音楽が本機のスピーカーから聞こえ、ハウリング(本機のスピーカーから「ワーン」という音や「ブーン」という音)が発生する場合は、その部屋に無線式盗聴器が仕掛けられている可能性が高いといえます。

2 電話機に仕掛けられた盗聴器を探す

- 1 電話機の手話器を上げ、「時報(117)」または「天気予報(177)」に電話をかける
- 2 本機で盗聴器周波数をスキャンする
- 3 スキャンが停止して電波を受信したときには、本機のスピーカーから出ている音と、電話機の手話器から出ている音声と一致しているかを確認する
- 4 違う電話番号サービスにかけ直して見て、本機のスピーカーから出ている音声が変わるかを確かめる



・コードレス電話の場合は、子機との通信に電波を使用しています。この電波を受信している場合もありますので、確認を行う際は親機側(無線式でないもの)で電話をかけて1~3の操作をしてください。

<アドバイス>

電話機からの音声が本機のスピーカーから聞こえる場合には、無線式盗聴器が仕掛けられている可能性があります。

3 盗聴器が仕掛けられている可能性があるときには

室内や電話機に盗聴器が仕掛けられている可能性がある場合には、おおよその場所(部屋)を特定した後、その場所へ移動し、「盗聴器周波数スキャン」で受信中に次の操作をして確認してください。(調査する部屋の中で音楽などを鳴らしておきます)

- 1 盗聴器発見モードキーを押す



- 2 おおよその電波の発信源を探す

発見モード中に、家庭電源のコンセントや壁、置き時計など盗聴器が仕掛けられている可能性のある器具や家具に本機を近づけながら受信場所を移動し、受信レベル(Sメーター)の強く振れる場所・箇所を探します。



<アドバイス>

- 盗聴器周波数のすべてのチャンネルをスキャンし、上記の確認を行います。(パス登録を使うと効率的な確認ができます)
- 受信レベル(Sメーター)の強く振れる場所に、無線式盗聴器が仕掛けられている可能性があります。また強いハウリングが発生する場合はその付近に無線式盗聴器が仕掛けられている可能性があります。

4 盗聴器が仕掛けられている場所を探す

盗聴器発見モードでおおよその電波の発信源が確認できたら、さらに、盗聴器発見アラームモードに設定し、その箇所に本機のアンテナを近づけ、強くアラームの鳴る方向、箇所(発信源)を特定します。

- 1 機能キーを押す



- 2 盗聴器発見モードキーを押す
盗聴器発見アラームモードになります。



- 3 強くアラームが鳴る箇所を特定する

<アドバイス>

- 調査は、必ず「盗聴器周波数スキャン」で盗聴器を探してから行ってください。無線を使っていない機器(蛍光灯、コンピューター、テレビ、ファックス、電子レンジなど)からも副次的な電波が出ています。
- 盗聴器は無線式だけではなく、また、無線式であっても周波数を変えて取り付けられる場合もありますので、盗聴器の発見には専門知識が必要です。弊社では盗聴器の調査や撤去等は行っておりません。盗聴器の有無や発見の調査は、専門の調査会社にご相談ください。

VFO モードにする

■ [SRCH] が表示されている場合

サーチキーを押す。



■ [SCAN] が表示されている場合

メモリーキーを2回押す。



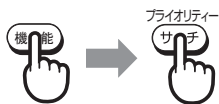
■ チャンネルナンバー [ch] が表示されている場合

メモリーキーを押す。



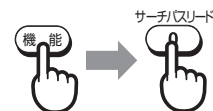
■ [PRI] が表示されている場合

機能キーを押してからサーチキーを押す。



■ [P] が表示(点滅)されている場合

機能キーを押してから、サーチバースードキーを押す。



・VFO モード時は、周波数ステップが表示している状態となります。[PRI]、[SRCH]、[SCAN] チャンネルナンバー [ch]、[P] の表示は消えています。

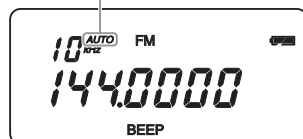
周波数ステップと受信モードを選択する(AUTOにする)

本機は、あらかじめ周波数帯に合わせて最適な周波数ステップと受信モードが登録されています。周波数ステップや受信モードで [AUTO] を選択しておけば、(※ 38、39 ページ)、受信周波数を合わせるだけで、自動的に最適な周波数ステップや受信モード(下表参照)が選択されます。

下限周波数 (MHz)	上限周波数 (MHz)	周波数 ステップ (kHz)	受信 モード
108.00000	141.97500	25	AM
142.00000	154.99000	10	FM
155.00000	170.00000	12.5	FM
300.00000	429.98750	12.5	FM
430.00000	440.01000	10	FM
440.01250	470.00000	12.5	FM
806.00000	903.00625	6.25	FM
903.01250	904.98750	12.5	FM
905.00000	1000.00000	6.25	FM

・購入後、初めて電源を入れたとき(工場出荷時)は VFO モードで、周波数ステップ / 受信モードは [AUTO] になります。初めてマルチバンドレシーバーを使用される方は、この [AUTO] の状態でご使用ください。

周波数ステップ/受信モード [AUTO] の状態
(VFO モードの状態)



・周波数ステップや受信モードが [AUTO] になっていない場合は、周波数ステップの変更または受信モードの変更操作(※ 38、39 ページ)を参照して、[AUTO] に設定してください。

周波数を入力する

1 数字キーで数値を入力する
(※ 9 ページ)2 決定キーを押す
入力した数値が確定します。

ダイヤルツマミによる選局

ダイヤルツマミを回すと、選んでいる周波数ステップの増減ができます。

周波数を進める
ダイヤルツマミを右に回す



周波数を戻す
ダイヤルツマミを左に回す



△キーまたは▽キーによる選局

△キーまたは▽キーを押すと、選んでいる周波数ステップが増減できます。

周波数を進める
△キーを押す



周波数を戻す
▽キーを押す



△キーまたは▽キーを1秒以上押し続けると、押している間は周波数の早送り、または早戻しができます。

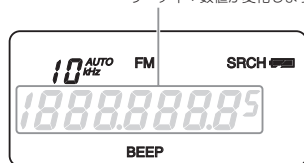
VFO サーチする

受信周波数範囲を連続的に周波数を変えながら、自動で電波を探します。

サーチキーを押す

[SRCH] が表示され、サーチが始まります。

サーチ中：数値が変化します



解除するときは、もう一度サーチキーを押します。[SRCH]の表示が消えます。

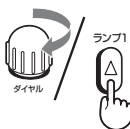
サーチの方向を変える

ダイヤルツマミや△キー、▽キーを操作する

周波数の高い方へ

サーチ

ダイヤルツマミを
右に回す
または
△キーを押す



周波数の低い方へ

サ一チ

ダイヤルツマミを
左に回す
または
▽キーを押す



常に雑音が出ているなど、毎回サーチが停止する周波数をサーチパスとして登録し、次のサーチからパス(受信しなく)することができます。

サーチパスに登録する

サーチ中に停止した周波数または入力した周波数を下記の手順でサーチパスとして登録します。

サーチパス登録せず、サーチを再開する場合は、ダイヤルツマミを回すか△キー、▽キーを押してください。

機能キーを押す

【FUNC】が表示されます。

○ クリアーキーを押す

“ピピッ”が鳴り、受信した周波数がサーチパスに登録されます。

- ・最大 100 まで登録できます。すべて登録されているときは、「ピポポ」と鳴り、登録を受け付けません。**[FULL]** が約 1 秒間表示されます。
- 不要なサーチパス登録を解除してください。
- (15/28 ページ)

Full

サーチパス登録を読み出す ＜サーチパスリード＞

登録しているサーチパスを読み出して確認
することができます。

VFO モードやサーチモードで受信中に操作します。

機能キーを押す

[**FUNC**]が表示されます。

● 数字キー(0)を押す

[P]が点滅します。

VFO 周波数より上の一番近いサーチパス周波数、またはサーチ方向で一番近いサーチパス周波数が読み出されます。



- ・サーチパスに何も登録されていないと、“ピポポ”と鳴り、**[null]**が約 1 秒間表示され操作する前の状態に戻ります。

3 ダイアルツマミや△キー、▽キーで確認したいサーチパス周波数を選ぶ

△キーまたは▽キーを約 1 秒以上押し続けると、早送りまたは早戻しができます。

サーチパスリードを解除するときは、クリアキーを押すか、もう一度手順 1、2 を行ってください。サーチパスを読み出す前の状態に戻ります。

サーチパス登録を解除する

サーチパス登録を解除することができます。

- 1 解除したい周波数を読み出す
サーチパスリードで読み出します。
(※ 27 ページ)
- 2 機能キーを押す
【FUNC】が表示されます。
- 3 クリアキーを押す
“ピ”と鳴り、読み出した周波数がサーチパスから解除されます。

- ・解除すると、その次にサーチパス登録されている周波数が表示されます。
- ・すべてのサーチパスを解除すると、“ピポポ”と鳴り、【null】が約 1 秒間表示され、サーチパスを読み出す前の状態に戻ります。

null

周波数そのものが不明な場合でも、おおよその周波数さえわかれば、数字キーでバンドを指定し範囲内のサーチを行うことができます。

バンドサーチする<バンド指定サーチ>

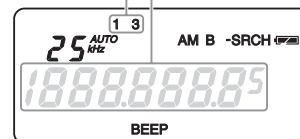
- 1 数字キー(1～9、0)を押して、聞きたいバンドを指定する
最大 4 つのバンドが指定できます。

<バンド 1、3 を指定する場合の例>

数字キー **1** **3** を押す

- 2 サーチキーを押す
【B-SRCH】とバンド No. が表示され、バンドサーチが始まります。

バンド No. ———— サーチ中: 数値が変化します



<バンド 1、3 を指定してサーチした場合の例>

サーチが停止すると、バンド No. が点滅します。

解除するときは、もう一度サーチキーを押してください。【B-SRCH】の表示が消え、VFO モードに戻ります。

- ・サーチが停止中(受信中)にダイヤルツマミや△キー、▽キーを操作すると方向が指定され、再びサーチが始まります。
- ・複数(最大 4 つ)のバンド No. を指定してサーチした場合は、指定した順番にかかわらず、バンド No. の低い順にサーチされます。(0 はバンド 10 を示します)
- ・指定されたバンドの全周波数がサーチパス登録(※ 27 ページ)されていると、数秒後“ピポポ”と鳴り、【ALL PASS】が約 1 秒間表示され、操作する前の状態に戻ります。
- ・バンドの登録内容は変更することができます。(「サーチバンドの内容を変更する」(※ 30 ページ))
- ・バンドサーチ中に周波数ステップや受信モードの変更が行われた場合は、次のバンドに移るまでの間、変更した周波数ステップや受信モードでバンドサーチが行われます。

バンドの初期登録内容

本機は、工場出荷時にあらかじめ下表の内容で登録されています。

バンド	名 称	下限周波数 (MHz)	上限周波数 (MHz)	周波数ステップ (kHz)	受信モード
1	航空無線他	108.0000	141.9750	25	AM
2	アマチュア無線 (VHF)	144.0000	146.0000	10	FM
3	消防、救急、防災他	146.0200	154.6100	10	FM
4	コードレス電話 (アナログ)	380.2125	381.3125	12.5	FM
5	アマチュア無線 (UHF)	430.0000	440.0000	10	FM
6	タクシー無線	450.0125	451.5000	12.5	FM
7	簡易無線	465.0375	468.8500	12.5	FM
8	地域防災行政無線	846.2500	849.7500	6.25	FM
9	MCA (業務) 無線	850.0125	859.9875	6.25	FM
0	パーソナル無線	903.0375	904.9875	12.5	FM

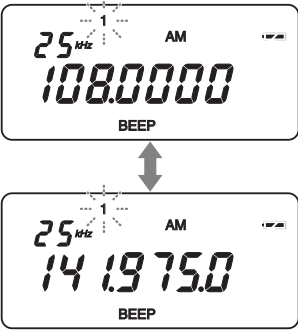
※ 法律や関連規則の変更によって、周波数割り当てや運用方法が変わることがあります。

※ 必要に応じてバンドの初期内容を変更することができます。(※ 30 ページ)

サーチモード

サーチバンドの内容を変更する(バンドライト)

サーチするバンドの上限周波数や下限周波数、周波数ステップ、受信モード(※ 29 ページ)を変更(編集)することができます。

- 1 VFO モードにする
「VFO モードにする」(※ 24 ページ)をご覧ください。
 - 2 機能キーを押す
[FUNC]が表示されます。
 - 3 メモリードキーを押す
バンド 1 のバンド No. が点滅し、下限周波数、上限周波数が交互に表示されます。
- 
- 4 編集するバンドを選ぶ
ダイヤルツマミや△キー、▽キーで編集するバンドを選んでください。
 - 5 編集するバンド No. が表示されたら決定キーを押す
下限周波数が表示されます。
 - 6 数字キーで数値(下限周波数)を入力する(※ 15 ページ)
周波数表示部に入力した下限周波数が表示されます。
 - 7 決定キーを押す
下限周波数が確定し、周波数表示部に上限周波数が表示されます。
 - 8 数字キーで数値(上限周波数)を入力する(※ 15 ページ)
周波数表示部に入力した上限周波数が表示されます。

- 9 決定キーを押す
入力された周波数は周波数ステップにより調整されて登録されます。このとき、周波数ステップ/チャンネルメモリ表示部の[AUTO]が点滅します。
 - ・ 上限周波数と下限周波数を入力中に、クリアキーを 2 回押すと、手順 2 に戻ります。
- 10 周波数ステップと受信モードの設定を下記 A)、B)のいずれかで行う
 - A) 最適な周波数ステップと受信モードに自動設定する・・・AUTO に設定する場合
 - 1.[AUTO] が点滅中に、決定キーを押す
“ビビ”と鳴り、下限周波数、上限周波数が交互に数秒間表示された後“ビ”と鳴りサーチバンドの登録が完了します。登録が完了すると VFO モードに戻ります。
 - ・ 上限周波数が下限周波数より小さい場合は、[ERR] が約 1 秒間表示され、手順 2 に戻ります。
 - B) 周波数ステップと受信モードを指定する場合・・・AUTO に設定しない場合
 1. クリアキーを押す
受信モード(FM または AM)が点滅します。
 2. ダイヤルツマミや△キー、▽キーで受信モードを選び決定キーを押す
ダイヤルツマミや△キー、▽キーで選択し決定キーを押すと周波数ステップ(数値と単位)が点滅します。
 3. ダイヤルツマミや△キー、▽キーで周波数ステップを選び決定キーを押す
ダイヤルツマミや△キー、▽キーで選択し決定キーを押すと“ビビ”と鳴り下限周波数、上限周波数が交互に数秒間表示された後“ビ”と鳴りサーチバンドの登録が完了します。登録が完了すると VFO モードに戻ります。
 - ・ 上限周波数が下限周波数より小さい場合は、[ERR] が約 1 秒間表示され、手順 2 に戻ります。

スキャンモード

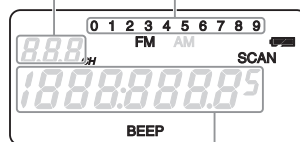
スキャン

全てのチャンネルメモリをスキャンする ＜全チャンネルスキャン＞

スキャンキーを押す

[SCAN] が表示され、スキャンが始まります。
スキャンが停止すると、受信中のチャンネル番号、受信周波数を表示、該当するバンク No. が点滅します。

チャンネル番号 バンク No.



スキャン中：数値が変化します。

＜バンク 0 ～ 9 にチャンネルメモリ登録がされている(工場出荷時)場合の例＞

解除するときは、スキャンキー、またはメモリーードキーを押してください。[SCAN] とバンク No. が消え、メモリ読み出し状態(チャンネルメモリーード(※ 35 ページ))になります。

- ・ メモリ読み出し状態中にスキャンキーを押すと、読み出しているチャンネルより 1 つ高いチャンネルから順にスキャンします。
- ・ 受信中に約 2 秒以上電波が途切れると、再びスキャンを始めます。
- ・ 何もメモリされていない状態でスキャンキーを押した場合は、“ビボボ”と鳴り、[null] が約 1 秒間表示され、操作を行う前の状態に戻ります。
- ・ チャンネルメモリがすべてスキャンパス登録されている場合は、“ビボボ”と鳴り、[ALL PASS] が約 1 秒間表示され、操作を行う前の状態に戻ります。

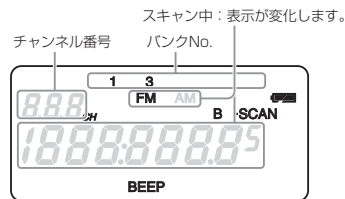
特定のメモリチャンネルをスキャンする ＜バンク指定スキャン＞

数字キーを使って 1 ～ 4 つのバンクを指定し、スキャンすることができます。

- 1 数字キー(1 ～ 9、0)を押して、聞きたいバンクを指定する
最大 4 つのバンクが指定できます。

＜バンク 1、3 を指定する場合の例＞
数字キー   を押す

- 2 スキャンキーを押す
[B-SCAN] が表示され、指定されたバンク内でスキャンが始まります。
スキャンが停止すると、受信中のチャンネル番号、受信周波数を表示、該当するバンク No. が点滅します。



＜バンク 1、3 を指定する場合の例＞

解除するときは、スキャンキー、またはメモリーードキーを押してください。[B-SCAN] が消え、メモリ読み出し状態(チャンネルメモリーード(※ 35 ページ))になります。

- ・ バンク指定した順番にかかわらず、チャンネル番号の小さい順にスキャンされます。
- ・ 指定されたバンクにチャンネルメモリが登録されていないときは、“ビボボ”と鳴り、[null] が約 1 秒間表示され、操作を行う前の状態に戻ります。
- ・ 指定されたバンクの全チャンネルメモリがスキャンパスに登録されていると、“ビボボ”と鳴り、[ALL PASS] が約 1 秒間表示され、操作を行う前の状態に戻ります。

スキャンの方向を変える

ダイヤルツマミや△キー、▽キーを操作する

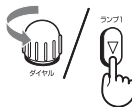
チャンネル番号の大きい方へスキャン

ダイヤルツマミを
右に回す
または△キーを押す



チャンネル番号の小さい方へスキャン

ダイヤルツマミを
左に回す
または▽キーを押す



- ・スキャンが停止中（受信）に、ダイヤルツマミや△キー、▽キーを操作すると、方向が指定され、再びスキャンが始まります。

チャンネルメモリの初期登録内容

工場出荷時では、下記の内容が登録されています。

チャンネル No.	バンク	ジャンル	登録数
000 ~ 049	1	消防・救急無線	50ch
050 ~ 099	2	消防・救急無線	38ch
100 ~ 149	3	航空無線（航空・航空路管制）	50ch
150 ~ 199	4	航空無線（航空・航空路管制）	50ch
200 ~ 249	5	鉄道業務無線	50ch
250 ~ 299	6	鉄道業務無線	34ch
300 ~ 349	7	NEXCO・道路公社・JAF 無線・バス無線	50ch
350 ~ 399	8	NEXCO・道路公社・JAF 無線・バス無線	23ch
400 ~ 449	9	消防・救急（署活・東京消防他）	43ch
450 ~ 499	0	特定小電力トランシーバー	20ch

スキャンパスに登録する

チャンネルメモリにスキャンパス登録すると、スキャン中（※31、32 ページ）に受信しなくすることができます。

1 スキャンパスに登録したいチャンネルメモリを読み出す
チャンネルメモリリード（※35 ページ）で読み出すか、スキャンで電波を受信します。

2 機能キーを押す
【FUNC】が表示されます。

3 クリアーキーを押す
“ビ”と鳴り、読み出したチャンネルメモリにスキャンパスが登録され、【CH】が点滅します。
次のスキャンから受信しなくなります。



- ・プライオリティチャンネルはスキャンパスの登録ができません。
- ・スキャンパス登録したチャンネルメモリには、【CH】が点滅します。
- ・スキャンパスが登録されているチャンネルメモリも、チャンネルメモリリードで読み出すことができます。そのときは【CH】が点滅します。
- ・スキャン停止中に、受信中のチャンネルメモリをスキャンパスに登録すると、再びスキャンが始まります。また、チャンネルメモリがすべてスキャンパスに登録されると、“ビポ”と鳴り、【ALL PASS】が約 1 秒間表示されます。

ALL PASS

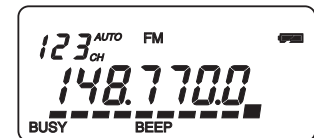
スキャンパス登録を解除する

登録したスキャンパスを解除することができます。

1 スキャンパス登録を解除したいチャンネルメモリを読み出す
チャンネルメモリリード（※35 ページ）で読み出します。

2 機能キーを押す
【FUNC】が表示されます。

3 クリアーキーを押す
“ビ”と鳴り、読み出したチャンネルメモリのスキャンパス登録が解除されます。



- ・【CH】の点滅が点灯に変わります。

よく聞く周波数を周波数ステップや受信モードなどの情報を含めチャンネルメモリとして登録しておくことができます。

スキャン(※31、32 ページ)は、登録したチャンネルメモリを自動的に読み出して電波を探します。

登録できる内容

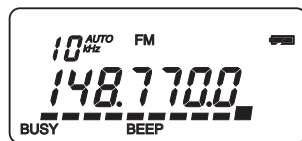
チャンネルごとに以下の内容が登録できます。

- ・受信周波数
- ・周波数ステップ
- ・受信モード
- ・スキャンパス

チャンネルメモリに登録する<チャンネルメモリライト>

1 周波数を入力するか、サーチモードで受信する

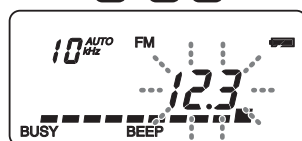
- ・周波数を入力する際は、周波数ステップや受信モードを設定してください。



2 数字キーで登録するチャンネル番号(000ch ~ 509ch までの間)を指定する

< 123ch にメモリ登録する場合の例 >

数字キー 1 2 3 を押す



- ・チャンネル番号は、088ch ~ 099ch、284ch ~ 299ch、373 ~ 399ch、443ch ~ 449ch に指定することをおすすめします。上記以外のチャンネル番号は工場出荷時にあらかじめ登録されており、変更すると、チャンネルメモリの初期登録内容(※32 ページ)が変更されます。
- ・450ch ~ 499ch は、オートメモリライト機能でも使用します。オートメモリライト機能を ON でサーチを開始すると、450ch ~ 499ch に登録したメモリはすべて消去されます。(※42 ページ)

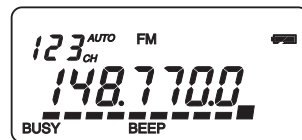
- ・チャンネル番号の 500ch ~ 509ch は、プライオリティチャンネル(※37 ページ)への登録となります。
- ・チャンネル番号を入力せずに登録することもできます。そのときのチャンネル番号は、自動的に以前、最後に表示されたチャンネル番号の次の番号になります。(プライオリティチャンネルを除く)
- ・再度、同じチャンネル番号に登録すると、登録内容は更新されます。ただし、すでに登録されているチャンネルにスキャンパス登録(※33 ページ)がされている場合には、その登録を解除して上書きされます。

3 機能キーを押す

【FUNC】が表示されます。

4 スキャンキーを押す

“ピピ”と鳴り、登録したチャンネル番号が約 1 秒間表示されます。



- ・登録終了後は、チャンネル番号を入力する前の表示に戻ります。
- ・適切でないチャンネル番号が入力されて登録されたときは、“ピポポ”と鳴り、【Error】が約 1 秒間表示された後、操作を行う前の状態に戻ります。



チャンネルメモリを読み出す<チャンネルメモリリード>

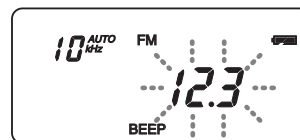
登録しているチャンネルメモリを読み出すことができます。

1 数字キーを押して読み出したいチャンネルメモリ番号(000ch ~ 509ch までの間)を入力する

< 123ch を読み出す場合の例 >

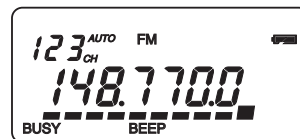
数字キー 1 2 3 を押す

- ・500ch ~ 509ch を入力すると、プライオリティチャンネル(※37 ページ)を読み出します。



2 メモリリードキーを押す

選んだチャンネル番号のチャンネルメモリを読み出して受信します。



- ・選んだチャンネル番号に何も登録されていないときは、周波数が 000.000.0 の表示になりますが、操作前に受信していた周波数を受信し続けます。
- ・チャンネル番号を入力しないで読み出すと、以前、最後に読み出されたチャンネルメモリ番号が読み出されます。
- ・適切でないチャンネル番号が入力されて読み出されたときは、“ピポポ”と鳴り、【Error】が約 1 秒間表示され、操作を行う前の状態に戻ります。

3 他のチャンネルメモリを選ぶ

ダイヤルツマミや△キー、▽キーで選びます。
△キーまたは▽キーを 1 秒以上押し続けると、早送りまたは早戻しができます。

チャンネルメモリの読み出しを解除するとき、メモリリードキーを押してください。チャンネルメモリの読み出しをする前の VFO モードになります。

チャンネルメモリを読み出して削除する

1 削除したいチャンネルメモリを読み出す

チャンネルメモリリードで読み出します。

2 機能キーを押す

【FUNC】が表示されます。

3 スキャンキーを押す

“ピピ”と鳴り、チャンネルメモリから削除され、周波数が 000.000.0 の表示になります。(受信は続きます)



- ・スキャン(※31、32 ページ)で電波を受信中も、2、3 の操作で削除することができます。その場合は、チャンネルメモリから削除した後、スキャンを再開します。
- ・メモリ登録していないチャンネルを読み出し、上記の操作をしたときは“ピポポ”と鳴り、受け付けません。

チャンネルメモリの内容を VFO モードへコピーする(メモリ VFO)

読み出したチャンネルメモリの内容をそのまま VFO モードにコピーすることができます。

1 VFO モードにコピーしたいチャンネルメモリを読み出す

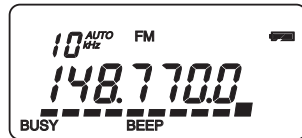
チャンネルメモリリード (※ 35 ページ) で読み出すか、スキャンで電波を受信します。

2 機能キーを押す

【FUNC】が表示されます。

3 数字キー(7)を押す

選択したチャンネルメモリの周波数がコピーされ、VFO モードになります。



- ・周波数だけでなく、周波数ステップ、受信モード、などのチャンネルメモリに登録されている内容がコピーされます。
- ・プライオリティチャンネルをコピーすることもできます。
- ・メモリ登録されていないチャンネルを読み出し、上記の操作をした場合は、“ピポポ”と鳴り受け付けません。

VFO モードや、チャンネルメモリリード中、サーチモード中、スキャンモード中に、プライオリティチャンネル(P0:500ch ~ P9:509ch)を約 5 秒間隔でチェックします。

プライオリティチャンネルに周波数を登録する

プライオリティチャンネルは、チャンネル番号の 500ch ~ 509ch に P0ch ~ P9ch として登録されます。

1 登録したい周波数を入力または受信する

2 チャンネル番号を入力する

数字キーを押して、500 ~ 509 の間で番号を入力します。

3 機能キーを押す

【FUNC】が表示されます。

4 スキャンキーを押す

“ピピッ”と鳴り、登録したチャンネル番号が約 1 秒間表示されます。プライオリティチャンネルは最大 10 チャンネルまで登録できます。



プライオリティチャンネル	登録されるチャンネル番号
P0	500CH
P1	501CH
P2	502CH
}	}
P8	508CH
P9	509CH

登録終了後は、チャンネル番号を入力する前の状態に戻ります。

登録を削除するときは、チャンネルメモリリードで読み出し、手順 3、4 を行います。

- ・工場出荷時のプライオリティチャンネル [P0] には 350.1 MHz(FM) が登録されています。

プライオリティ機能を使う

数字キーを使って最大 4 つのプライオリティチャンネルを指定し、約 5 秒間隔でチェックすることができます。

1 数字キーを押し、プライオリティチャンネル(500ch ~ 509ch)を指定する

< 500ch と 501ch を指定する場合の例>

数字キー ^{サーチモード} 0 ^{プライオリティ} 1 を押す

入力キー	指定されるプライオリティチャンネル番号
0	500CH
1	501CH
2	502CH
}	}
8	508CH
9	509CH

- ・入力した順番にかかわらず番号の小さいプライオリティチャンネル番号からチェックします。
- ・チャンネル番号の入力を省略することもできます。そのときはすべてのプライオリティチャンネルをチェックします。

2 機能キーを押す

【FUNC】が表示されます。

3 サーチキーを押す

【PRI】が表示され、プライオリティ受信が始まり、5 秒ごとにプライオリティチャンネルをチェックし、電波があるときは優先して受信します。

解除するときは、手順 2、3 を行ってください。

【PRI】の表示が消えます。

- ・指定したチャンネル番号に何も登録されていない場合は、“ピポポ”と鳴り、【nul】が約 1 秒間表示され、操作を行う前の状態に戻ります。

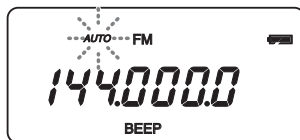
周波数ステップの変更

周波数ステップを変更する

VFO モードとサーチモード中に周波数ステップを変更することができます。
周波数ステップの変更は秘話解読機能（[P.41](#) ページ）を解除した状態で行ってください。

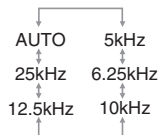
1 機能キーを押す
【**FUNC**】が表示されます。

2 数字キー (2) を押す
【**AUTO**】または現在の周波数ステップ (数値と単位) が点滅します。



＜初期状態 (AUTO) から手順 1、2 の操作をした場合の例＞

3 周波数ステップを選ぶ
ダイヤルツマミや△キー、▽キーで選びます。
受信モードにより変更できる周波数ステップが異なります。
※通常は AUTO でご使用ください。



＜周波数ステップの表示＞

・周波数ステップの変更は秘話解読機能（[P.41](#) ページ）を解除した状態で行ってください。【**SCR**】が表示された状態から上記のダイヤルツマミ操作を行った場合では、周波数ステップの変更はできません。

操作を途中でやめる場合は、クリアーキーまたは、再度上記 1、2 の操作を行ってください。
キー操作の途中でも、10 秒以内に決定キーが押されない場合には、周波数ステップ選択操作が解除され、機能キーが押される前の状態に戻ります。

4 決定キーを押す
周波数ステップが表示され、周波数ステップが変更されます。



＜初期状態 (AUTO) から 10kHz ステップに変更した場合の例＞

- ・周波数表示部の数値 (周波数) が、選択した周波数ステップで割り切れない場合は、周波数ステップに合った周波数に変更されます。
- ・AUTO を選択すると周波数ステップの数値と単位の表示が消え、【**AUTO**】が点滅します。続けて決定キーを押すと、周波数に適した周波数ステップが設置され、その周波数ステップ (数値と単位) と【**AUTO**】が点灯します。



- ・バンドサーチ中に周波数ステップを変更した場合は、次のバンドに移るまでの間、変更した周波数ステップでサーチが行われます。

受信モードの変更

受信モードを変更する

VFO モードとサーチモード中に受信モードを変更することができます。
受信モードの変更は秘話解読機能（[P.41](#) ページ）を解除した状態で行ってください。

1 機能キーを押す
【**FUNC**】が表示されます。

2 数字キー (3) を押す
【**AUTO**】または現在の受信モードが点滅します。



＜初期状態 (AUTO) から手順 1、2 の操作をした場合の例＞

3 受信モードを選ぶ
ダイヤルツマミや△キー、▽キーで選びます。
※通常は AUTO でご使用ください。



＜受信モードの表示＞

- ・受信モードの変更は秘話解読機能（[P.41](#) ページ）を解除した状態で行ってください。【**SCR**】が表示された状態から上記のダイヤルツマミ操作を行った場合では、受信モードの変更はできません。

操作を途中でやめる場合は、クリアーキーまたは、再度手順 1、2 の操作を行ってください。
キー操作の途中でも、10 秒以内に決定キーが押されない場合には、機能キーが押される前の状態に戻ります。

4 決定キーを押す
受信モードが変更されます。
また周波数ステップと周波数表示部の数値も、受信モードに適した周波数に変更されます。



＜初期状態 (AUTO) から FM に変更した場合の例＞

- ・AUTO を選択すると受信モード表示部の表示が消え、【**AUTO**】が点滅します。続けて決定キーを押すと、適した受信モードと周波数ステップが設定され、【**AUTO**】が点灯します。

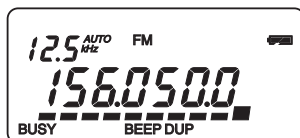


- ・バンドサーチ中に受信モードを変更した場合は、次のバンドに移るまでの間、変更した受信モードでバンドサーチします。

送信と受信で異なる周波数を使い交信（デュプレックス交信）している無線局で両方の電波を受信するとき 2 つの周波数をモニターキーで切り替えることができます。

デュプレックスモードに設定する

- 機能キーを押す
【F/M】が表示されます。
- 小数点キー(.)を押す
【DUP】が表示され、デュプレックスモードになります。



< 156.05MHzを受信中にデュプレックスモードを設定した場合の例 >

解除するときは、もう一度手順 1、2 を行ってください。【DUP】の表示が消えます。

- デュプレックス交信では、2 つの周波数の間隔（シフト幅）が電波法で定められています。本機では、定められているシフト幅があらかじめ設定されています。

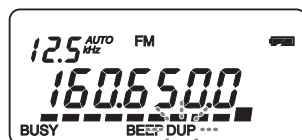
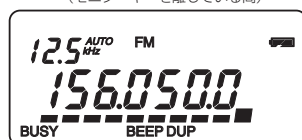
デュプレックス交信が行われている主な無線

主な無線	周波数 (MHz)	シフト幅
国際 VHF マリンバンド	156.000.0 ~ 157.425.0 160.600.0 ~ 162.025.0	4.6MHz
430MHz 帯アマチュア無線 (レピーター)	434.000.0 ~ 435.000.0 439.000.0 ~ 440.000.0	5.0MHz
タクシー無線	450.250.0 ~ 451.500.0 458.250.0 ~ 459.500.0	8.0MHz

シフト幅：送受信に使用する周波数の差

デュプレックス交信を受信する

- 【DUP】の表示を確認する
- モニターキーを押す
押している間は【DUP】が点滅し、もう一方の周波数が聞けます。
(モニターキーを離している間)



< もう一方の周波数 >
(モニターキーを押している間)

- デュプレックスは VFO モードや、チャンネルメモリリード中、サーチモード中、スキャンモード中にはたらく機能です。
- シフト幅が設定されていない周波数で、モニターキーを押すと、モニター機能としてはたらくします。
- モニターキーを押している間はスケルチを開き、サーチやスキャンの受信中に信号が途切れても、サーチやスキャンを始めません。

アナログタイプのコードレス電話機などでは、音声を変換させて送信し、受信側で、もう一度反転させて通常の音声に戻す秘話通信が使われることがあります。それらの電波は、音声反転しているため、通常の音声として聞くことができません。本機では、反転された音声の電波を受信した場合でも、通常の音声に戻して聞くことができます。秘話交信が使えるのは、受信モードが FM のときのみです。それ以外の受信モードでは秘話解読機能ははたらくしません。

秘話解読機能を使用する

- 秘話解読キーを押す
【SCR】が表示され、秘話が通常の音声に戻されます。



2 ダイアルツマミを回し、聞き取りやすく調節する

- 音声反転以外の秘話交信を通常の音声として聞くことはできません。
- 音声反転の交信は、音質が変わることがあります。
- デジタル式で交信している場合は、音声を聞くことができません。

解除するときは、もう一度秘話解読キーを押してください。【SCR】の表示が消えます。

FM モードで【SCR】が表示されているときは、ダイアルツマミで受信周波数を切り替えることや、チャンネルメモリの移動、サーチバスメモリの移動などはできません。

- AM モードでも秘話解読キーの操作を受け付けますが、はたらくしません。

秘話解読機能を解除する

- 秘話解読キーを押す
【SCR】の表示が消え、秘話解読機能が解除されます。

スキップ機能

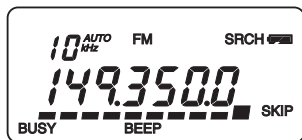
サーチモードやスキャンモードの停止後、受信中でも、約 4 秒後にサーチやスキャンを再開するように設定できます。

1 機能キーを押す

【**FUNC**】が表示されます。

2 数字キー(4)を押す

【**SKIP**】が表示されます。サーチやスキャンを行うと、スキップ機能がはたらきます。



解除するときは、もう一度手順 1、2 を行ってください。【**SKIP**】の表示が消えます。

- ・ブライオリティチャンネルを受信中は、スキップ機能がはたらきません。

オートメモリライト機能

サーチ受信した周波数をチャンネル番号 450 ~ 499 (バンク 0) に自動的に登録します。

サーチモードのみで有効な機能です。

1 VFO モードにする

「VFO モードにする」(P. 24 ページ) をご覧ください。

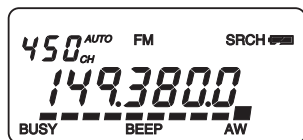
2 機能キーを押す

【**FUNC**】が表示されます。

3 数字キー(8)を押す

【**AW**】が表示されます。

4 VFO サーチ (P. 26 ページ) またはバンドサーチ (P. 29 ページ) をする



- ・サーチで受信中に手順 2、3 の操作をすることでもオートメモリライトとなります。
- ・オートメモリライトを開始するとバンク (0) の登録内容がすべて消去されてサーチが始まりますのでご注意ください。
- ・サーチが始まり、信号を受信すると「ビ」和鳴り、メモリ登録します。
- ・メモリ登録をすると、メモリチャンネル番号を約 1 秒間表示してから、サーチを再開します。
- ・オートメモリライトは、チャンネル番号 450 から順にチャンネルメモリに登録し、50 チャンネルすべてに登録すると「ビビ」和鳴り、オートメモリライトとサーチを終了し、VFO モードになります。
- ・オートメモリライト中にすでに登録済みの同一周波数があった場合は、メモリ登録せず、1 秒後にサーチを開始します。
- ・サーチ受信中にクリアキーが押されたときは、そのメモリ登録を削除してサーチを開始します。
- ・オートメモリライト中に手順 2、3 を行ったときや、サーチ以外のモードにした場合はオートメモリライトを途中で中止し、オートメモリライト機能が解除されます。

ランプ機能

ディスプレイとキーの照明機能です。以下の操作により、5 秒間点灯 (ランプ 1) と常時点灯 (ランプ 2) を設定することができます。

ランプを 5 秒間点灯させる・・・(ランプ 1)

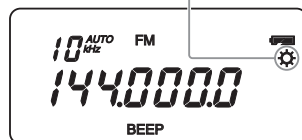
機能キーを押した後、△キーを押す
ランプが約 5 秒間点灯します。点灯中に各キーやダイヤルを操作すると、最後の操作から約 5 秒間、ランプが点灯します。

- ・電源ボタン、音量ツマミ、スケルトツマミを操作しても、ランプは点灯を継続 (5 秒間) しません。

ランプを常時点灯させる・・・(ランプ 2)

機能キーを押した後、▽キーを押す
ランプを常時点灯させます。

【**★**】が表示され、ランプが点灯したまま (常時点灯) になります。



解除するときは、もう一度上記の操作を行ってください。ランプと【**★**】の表示が消えます。

ビープ音

キー操作をしたときに、確認のため、次のような操作音 (ビープ音) が鳴ります。工場出荷時は鳴るように設定されていますが、この音を消すことができます。

キー操作	ビープ音
キーを押したとき	“ビ”
登録完了	“ビビ”
操作が正しくないとき	“ビポポ”

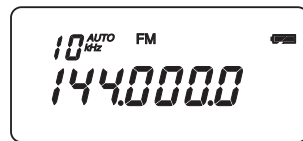
操作音 (ビープ音) を OFF にする

1 機能キーを押す

【**FUNC**】が表示されます。

2 数字キー (5) を押す

【**BEEP**】の表示が消え、操作音が鳴らなくなります。



操作音 (ビープ音) を鳴らす (ON にする) とときは、もう一度手順 1、2 を行ってください。【**BEEP**】が表示されます。

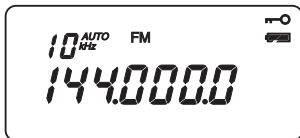
キーロック機能

携帯時の誤動作などを防止するため、キー操作とダイヤルツマミの操作を無効にすることができます。

ただし、ロック中でも電源ボタンとキーロックの解除操作、ランプ機能および音量ツマミ、スケルチツマミ、モニター機能は操作できます。

キーロック機能を設定する

- 1 機能キーを押す
【FUNK】が表示されます。
- 2 モニターキーを押す
【r-o】が表示され、ロックに設定されます。



キーロック機能を解除する

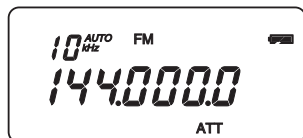
- 1 機能キーを押す
【FUNK】が表示されます。
- 2 モニターキーを押す
【r-o】の表示が消えます。

アッテネーター機能

テレビ放送局などの強い電波の影響で、混信や雑音といった障害を受けるとき、電波を減衰させて、聞き取りやすくすることができます。

アッテネーターを設定する

- 1 機能キーを押す
【FUNK】が表示されます。
- 2 数字キー (1) を押す
【ATT】が表示され、アッテネーターが設定されます。



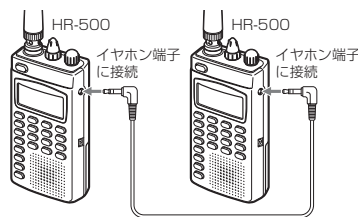
アッテネーターを解除するときは、もう一度手順 1、2 を行ってください。【ATT】の表示が消えます。

- ・アッテネーターを設定したときの減衰量は約 15dB です。
- ・アッテネーターを設定したままでは、弱い電波の受信ができなくなります。必要な場合のみ設定してください。
- ・VFO サーチやバンドサーチ、スキャン、盗聴器周波数スキャン中にアッテネーターの設定を行うこともできます。

クローン機能

メモリ内容を他の HR-500 にコピーすることができます。

- 1 電源が OFF の状態で、2 台のイヤホン端子間を市販の 3.5 φ ステレオミニプラグコードで接続する



- ・抵抗入りのコードは使用しないでください。

- 2 2 台の電源を ON にして、VFO モードにする (※ 24 ページ)
- 3 次の順に数字キーと機能キー、クリアーキーを押す (2 台とも設定します)



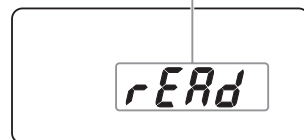
クローンモードになります。

周波数表示部に【COPY】と表示されます



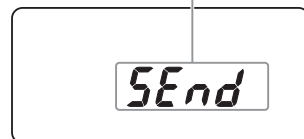
- 4 メモリ内容をコピーする側の HR-500 のクリアーキーを押す

周波数表示部に【rEAd】と表示されます



- 5 次にメモリ内容を送る側の HR-500 の決定キーを押す

周波数表示部に【SEnd】と表示されます



- ・手順 1 ～ 5 の操作でコピーが始まり、S メーターの点灯数が時間とともに増え、メモリデータの転送の状況を表します。
- ・全メモリデータの転送されると、送り側、受け側とも【ALL PASS】が表示された後、【CoPY】の表示に戻ります。
- ・クローン時間は、転送するメモリの登録状況にもよりますが、約 1 分 15 秒です。

- 6 2 台の電源を OFF にし、3.5 φ ステレオミニプラグコードを外す

- ・電源を OFF にすると、クローン機能は解除されます。

本体初期化について

チャンネルメモリやサーチバンドの内容、本機の設定内容を工場出荷時の状態に戻すことができます。

本体初期化をする

1 一度電源を OFF にする

2 クリアキーと決定キーを同時に押しながら電源ボタンを押して電源を入れる



【CLEAR】が表示された後 VFO モードになります。

※ 購入後にお客様が登録したメモリやサーチパス等もすべて消去されます。

■工場出荷状態の各機能の設定値

項 目	初期設定	参照ページ
動作モード	VFO モード：144.000.00MHz	29 ページ
受信モード	AUTO	16 ページ
周波数ステップ	AUTO	16 ページ
ピープ音	ON	43 ページ
キーロック機能	OFF	44 ページ
ランプ機能	OFF	43 ページ
スキップ機能	OFF	42 ページ
オートメモリライト機能	OFF	42 ページ
プライオリティ機能	OFF	37 ページ
アッテネーター機能	OFF	44 ページ
秘話解読機能	OFF	41 ページ
チャンネルメモリ	登録あり	34 ページ
プライオリティチャンネルメモリ	PO：350.1MHz、P1～P9：登録なし	37 ページ
サーチパスメモリ	登録なし	27 ページ

●工場出荷時のサーチバンドの内容は(29 ページ)

●工場出荷時のチャンネルメモリの内容は(32、47～51 ページ)

バンク1 / 消防・救急無線

ch	周波数	受信モード	詳細
000	146.0400	F M	救急用・基地局
001	146.0800	//	//
002	146.7600	//	//
003	146.7800	//	//
004	146.8000	//	//
005	146.8200	//	//
006	146.8400	//	//
007	146.8600	//	//
008	146.8800	//	//
009	147.4000	//	//
010	147.4200	//	//
011	147.4400	//	//
012	147.4600	//	//
013	147.4800	//	//
014	147.5000	//	//
015	147.7400	//	//
016	147.7600	//	//
017	147.7800	//	//
018	148.0100	//	消防用・市町村波
019	148.2100	//	消防用・都道府県内共通波
020	148.2900	//	//
021	148.7500	//	消防用・全国共通波
022	149.1300	//	消防用・市町村波
023	149.1500	//	//
024	149.6100	//	//
025	149.6300	//	//
026	149.6900	//	消防用・都道府県内共通波
027	149.7100	//	消防用・市町村波
028	149.7300	//	//
029	149.7500	//	//
030	150.0700	//	//
031	150.1700	//	//
032	150.1900	//	//
033	150.2700	//	//
034	150.2900	//	//
035	150.3100	//	//
036	150.3300	//	//
037	150.3500	//	//
038	150.4500	//	//
039	150.4700	//	//
040	150.7300	//	消防用・全国共通波
041	150.7500	//	消防用・市町村波
042	151.1100	//	//
043	151.1500	//	//
044	151.1900	//	//
045	151.2100	//	//
046	151.2300	//	//
047	151.2700	//	//
048	151.3100	//	//
049	151.4300	//	//

バンク2 / 消防・救急無線

ch	周波数	受信モード	詳細
050	151.5500	F M	消防用・市町村波
051	151.5700	//	//
052	151.5900	//	//
053	151.6300	//	//
054	151.6700	//	//
055	151.6900	//	//
056	151.7100	//	//
057	151.7500	//	//
058	151.8100	//	//
059	152.0100	//	//
060	152.0300	//	救急用・基地局
061	152.0700	//	消防用・市町村波
062	152.0900	//	//
063	152.2300	//	//
064	152.2700	//	//
065	152.5700	//	//
066	152.7700	//	消防用・都道府県内共通波
067	152.7900	//	消防用・市町村波
068	152.8100	//	消防用・都道府県内共通波
069	153.0100	//	//
070	153.1100	//	救急用・基地局
071	153.3100	//	消防用・市町村波
072	153.3500	//	消防用専用波
073	153.4300	//	消防用・市町村波
074	153.5100	//	//
075	153.5300	//	消防用・都道府県内共通波
076	153.5500	//	消防用・市町村波
077	153.5900	//	//
078	153.7100	//	//
079	153.7500	//	//
080	153.8300	//	//
081	153.8500	//	//
082	153.8700	//	//
083	154.0700	//	//
084	154.1500	//	消防用・全国共通波
085	154.1900	//	消防用・市町村波
086	154.2900	//	//
087	154.3100	//	//
088	000.0000	—	未登録
089	//	//	//
090	//	//	//
091	//	//	//
092	//	//	//
093	//	//	//
094	//	//	//
095	//	//	//
096	//	//	//
097	//	//	//
098	//	//	//
099	//	//	//

バンク3/ 航空無線（航空・航空路管制）

ch	周波数	受信 モード	詳細
100	118.1000	A M	航空管制用
101	118.2000	//	//
102	118.2250	//	//
103	118.3000	//	//
104	118.4000	//	//
105	118.7000	//	//
106	118.8000	//	//
107	118.9000	//	航空路管制
108	119.0250	//	航空管制用
109	119.1000	//	//
110	119.1500	//	//
111	119.2000	//	//
112	119.3000	//	航空路管制
113	119.4500	//	航空管制用
114	119.5000	//	//
115	119.6000	//	//
116	119.6500	//	//
117	119.7000	//	//
118	119.7500	//	//
119	119.9000	//	//
120	120.0000	//	//
121	120.1000	//	//
122	120.2000	//	//
123	120.2500	//	//
124	120.3000	//	//
125	120.4000	//	//
126	120.4500	//	//
127	120.5000	//	航空路管制
128	120.6000	//	航空管制用
129	120.6500	//	//
130	120.7000	//	//
131	120.7500	//	航空路管制
132	120.8000	//	航空管制用
133	120.8500	//	//
134	121.0250	//	//
135	121.1000	//	//
136	121.1500	//	//
137	121.2000	//	//
138	121.2750	//	//
139	121.6000	//	//
140	121.7000	//	//
141	121.7500	//	//
142	121.8000	//	//
143	121.8500	//	//
144	121.9000	//	//
145	122.7000	//	//
146	123.1000	//	//
147	123.7000	//	航空路管制
148	123.9000	//	//
149	124.0000	//	航空管制用

バンク4/ 航空無線（航空・航空路管制）

ch	周波数	受信 モード	詳細
150	124.1000	A M	航空路管制
151	124.2000	//	航空管制用
152	124.3500	//	//
153	124.4000	//	//
154	124.5000	//	航空路管制
155	124.5500	//	//
156	124.7000	//	航空管制用
157	124.7500	//	//
158	125.1000	//	//
159	125.2000	//	//
160	125.3000	//	//
161	125.5000	//	//
162	125.7000	//	航空路管制
163	125.8000	//	航空管制用
164	125.9000	//	航空路管制
165	126.0000	//	航空管制用
166	126.1000	//	航空路管制
167	126.2000	//	航空管制用
168	126.4000	//	//
169	126.4500	//	//
170	126.5000	//	//
171	127.4500	//	//
172	127.5000	//	航空路管制
173	127.6000	//	航空管制用
174	127.7000	//	//
175	127.8000	//	//
176	127.8500	//	//
177	127.9000	//	//
178	127.9500	//	//
179	128.2500	//	//
180	128.6000	//	//
181	128.8000	//	//
182	132.3000	//	航空路管制
183	132.3500	//	//
184	132.4000	//	//
185	132.4500	//	//
186	132.5000	//	//
187	132.7000	//	//
188	133.1500	//	//
189	133.3000	//	//
190	133.5000	//	//
191	133.5500	//	//
192	133.6000	//	//
193	133.8000	//	//
194	133.8500	//	//
195	134.1000	//	航空管制用
196	134.3500	//	航空路管制
197	134.4000	//	//
198	135.3000	//	//
199	138.0500	//	航空管制用

バンク5/ 鉄道業務無線

ch	周波数	受信 モード	詳細
200	142.9000	F M	地方鉄道用／ローブウェイ
201	142.9200	//	地方鉄道用
202	143.7200	//	//
203	143.8000	//	//
204	143.8200	//	//
205	143.8400	//	//
206	143.8600	//	//
207	143.8800	//	//
208	143.9000	//	//
209	143.9200	//	//
210	143.9400	//	//
211	143.9600	//	//
212	143.9800	//	//
213	146.6400	//	//
214	147.7200	//	//
215	147.8000	//	//
216	147.8200	//	//
217	147.8400	//	//
218	147.8600	//	//
219	147.8800	//	//
220	147.9000	//	//
221	147.9200	//	//
222	147.9400	//	//
223	147.9600	//	//
224	147.9800	//	//
225	148.0500	//	連絡波
226	148.0900	//	連絡波／鉄道電話
227	148.7100	//	地方鉄道用
228	148.9300	//	地方鉄道用／ローブウェイ
229	149.0700	//	//
230	149.0900	//	//
231	149.1900	//	地方鉄道用
232	149.4700	//	//
233	149.5100	//	//
234	149.8300	//	//
235	149.8500	//	//
236	150.2300	//	//
237	150.3700	//	//
238	150.3900	//	//
239	150.5300	//	//
240	150.7900	//	//
241	150.9700	//	連絡波／構内作業用
242	151.0500	//	地方鉄道用／ローブウェイ
243	151.0900	//	地方鉄道用
244	151.2500	//	地方鉄道用／ローブウェイ
245	151.3300	//	地方鉄道用
246	151.6100	//	連絡波
247	151.6500	//	地方鉄道用
248	151.7700	//	//
249	151.7900	//	//

バンク6/ 鉄道業務無線

ch	周波数	受信 モード	詳細
250	152.1900	F M	地方鉄道用
251	152.4900	//	連絡波／保線作業用
252	153.2900	//	地方鉄道用
253	153.3900	//	保線作業用
254	153.4700	//	地方鉄道用
255	153.6500	//	地方鉄道用／ローブウェイ
256	157.6900	//	連絡波／通信作業用
257	157.9700	//	連絡波
258	158.0700	//	連絡波／保線作業用
259	159.1700	//	地方鉄道用
260	341.1500	//	//
261	341.2000	//	//
262	341.6500	//	//
263	341.7000	//	//
264	352.5500	//	//
265	352.6125	//	J R／地方鉄道用
266	352.6250	//	//
267	365.1750	//	//
268	365.1875	//	//
269	365.2000	//	//
270	365.2125	//	//
271	365.2250	//	//
272	365.2375	//	//
273	365.2500	//	//
274	365.2625	//	//
275	365.2750	//	//
276	365.2875	//	//
277	365.3000	//	//
278	365.3125	//	//
279	372.8250	//	地方鉄道用（列車接近警報）
280	373.1000	//	地方鉄道用
281	373.1250	//	地方鉄道用（列車接近警報）
282	373.3700	//	地方鉄道用
283	373.6000	//	地方鉄道用／ローブウェイ
284	000.0000	ー	未登録
285	//	//	//
286	//	//	//
287	//	//	//
288	//	//	//
289	//	//	//
290	//	//	//
291	//	//	//
292	//	//	//
293	//	//	//
294	//	//	//
295	//	//	//
296	//	//	//
297	//	//	//
298	//	//	//
299	//	//	//

バンク7/NEXCO・道路公社・JAF無線、バス無線

ch	周波数	受信 モード	詳細
300	142.2700	F M	道路管理用
301	142.9000	//	地方鉄道用
302	142.9200	//	//
303	146.2700	//	//
304	148.0500	//	//
305	148.0900	//	//
306	148.8500	//	水防道路用
307	148.8700	//	//
308	148.8900	//	道路管理用 他
309	148.9300	//	バス 他
310	149.0900	//	//
311	149.1900	//	//
312	149.3100	//	//
313	149.4500	//	各種業務用 他
314	149.4900	//	//
315	149.5100	//	バス 他
316	149.8500	//	//
317	150.2300	//	//
318	150.3700	//	//
319	150.5300	//	//
320	150.5500	//	道路管理用
321	150.8500	//	道路管理用 他
322	150.9300	//	バス 他
323	151.0900	//	//
324	151.2500	//	//
325	151.3300	//	//
326	151.3700	//	J A F 他
327	151.3900	//	//
328	151.4100	//	//
329	151.6500	//	バス 他
330	151.7700	//	//
331	151.7900	//	//
332	151.8500	//	J A F 他
333	152.1900	//	バス 他
334	153.3900	//	//
335	153.6500	//	//
336	157.9700	//	//
337	159.1700	//	//
338	340.8500	//	道路管理用 他
339	340.8625	//	//
340	340.8750	//	//
341	349.0875	//	バス 他
342	349.1000	//	//
343	357.3500	//	道路管理用 他
344	357.3625	//	//
345	357.3750	//	//
346	365.5500	//	道路管理用
347	372.2750	//	//
348	373.1000	//	バス 他
349	373.1750	//	本州四国連絡橋道路

バンク8/NEXCO・道路公社・JAF無線、バス無線

ch	周波数	受信 モード	詳細
350	373.3250	F M	本州四国連絡橋道路
351	382.8000	//	道路管理用
352	382.8500	//	//
353	382.8625	//	//
354	382.8750	//	バス 他
355	382.9500	//	//
356	383.3500	//	道路管理用
357	383.3750	//	//
358	383.3875	//	//
359	383.4000	//	//
360	383.4125	//	//
361	383.4250	//	//
362	383.4375	//	//
363	383.4500	//	//
364	398.8000	//	//
365	398.8500	//	//
366	398.8625	//	//
367	398.8750	//	バス
368	398.9500	//	//
369	414.6500	//	J A F 他
370	414.7500	//	//
371	414.8500	//	//
372	415.3500	//	//
373	000.0000	—	未登録
374	//	//	//
375	//	//	//
376	//	//	//
377	//	//	//
378	//	//	//
379	//	//	//
380	//	//	//
381	//	//	//
382	//	//	//
383	//	//	//
384	//	//	//
385	//	//	//
386	//	//	//
387	//	//	//
388	//	//	//
389	//	//	//
390	//	//	//
391	//	//	//
392	//	//	//
393	//	//	//
394	//	//	//
395	//	//	//
396	//	//	//
397	//	//	//
398	//	//	//
399	//	//	//

バンク9/消防・救急（署活・東京消防 他）

ch	周波数	受信 モード	詳細
400	154.1500	F M	救急用・基地局（東京）
401	158.3500	//	防災
402	357.9500	//	消防電話・基地局
403	395.2750	//	東京消防
404	395.2875	//	//
405	395.3000	//	//
406	395.3125	//	//
407	395.3250	//	//
408	395.3375	//	//
409	395.3500	//	//
410	395.3625	//	//
411	395.3750	//	//
412	395.3875	//	//
413	395.4000	//	//
414	395.4125	//	//
415	395.4250	//	//
416	395.4375	//	//
417	395.4500	//	//
418	395.4625	//	//
419	395.4750	//	//
420	395.4875	//	//
421	395.5000	//	//
422	395.5125	//	//
423	398.9250	//	ヘリテレビ連絡波・基地局
424	399.0000	//	救急用（大阪）
425	399.6500	//	ヘリテレビ連絡波・基地局
426	466.3500	//	消防署活系
427	466.3625	//	//
428	466.3750	//	//
429	466.3875	//	//
430	466.4000	//	//
431	466.4125	//	//
432	466.4250	//	//
433	466.4375	//	//
434	466.4500	//	//
435	466.4625	//	//
436	466.4750	//	//
437	466.4875	//	//
438	466.5000	//	//
439	466.5125	//	//
440	466.5250	//	//
441	466.5375	//	//
442	466.5500	//	//
443	000.0000	—	未登録
444	//	//	//
445	//	//	//
446	//	//	//
447	//	//	//
448	//	//	//
449	//	//	//

バンク10/特定小電力トランシーバー

ch	周波数	受信 モード	詳細
450	422.0500	F M	シンプレックス方式（1 l c hタイプ）
451	422.0625	//	//
452	422.0750	//	//
453	422.0875	//	//
454	422.1000	//	//
455	422.1125	//	//
456	422.1250	//	//
457	422.1375	//	//
458	422.1500	//	//
459	422.1625	//	//
460	422.1750	//	//
461	422.2000	//	シンプレックス方式（9 c hタイプ）
462	422.2125	//	//
463	422.2250	//	//
464	422.2375	//	//
465	422.2500	//	//
466	422.2625	//	//
467	422.2750	//	//
468	422.2875	//	//
469	422.3000	//	//
470	000.0000	—	未登録
}	//	//	//
499	//	//	//

プライオリティチャンネル

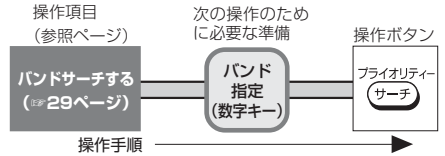
ch	周波数	受信 モード	詳細
500(P0)	350.1000	F M	取締り連絡波
501(P1)	000.0000	—	未登録
502(P2)	//	//	//
}	//	//	//
508(P8)	//	//	//
509(P9)	//	//	//

無線式盗聴周波数

受信モード	周波数	受信モード	周波数	受信モード	周波数	受信モード	周波数
1 FM	109.8800	60 //	149.5100	119 //	398.3050	178 //	399.9900
2 //	110.1500	61 //	149.8950	120 //	398.3100	179 //	400.0000
3 //	124.0850	62 //	150.0000	121 //	398.4500	180 //	400.0250
4 //	124.0900	63 //	150.5000	122 //	398.4550	181 //	400.3500
5 //	134.0000	64 //	153.3500	123 //	398.4600	182 //	401.0000
6 //	134.1600	65 //	154.0000	124 //	398.4850	183 //	401.0500
7 //	134.9000	66 //	154.1000	125 //	398.6000	184 //	402.6850
8 //	135.0375	67 //	154.3000	126 //	398.6050	185 //	404.2150
9 //	135.0750	68 //	154.3500	127 //	398.6400	186 //	404.5125
10 //	135.3625	69 //	154.5850	128 //	398.6450	187 //	404.5250
11 //	135.3650	70 //	157.6600	129 //	398.6500	188 //	404.5375
12 //	136.0000	71 //	163.3000	130 //	398.6550	189 //	404.5500
13 //	136.6000	72 //	163.8000	131 //	398.6750	190 //	404.5625
14 //	137.3200	73 //	167.7100	132 //	398.7050	191 //	404.5750
15 //	137.3500	74 //	311.0950	133 //	398.7100	192 //	405.3550
16 //	137.4450	75 //	311.1550	134 //	398.9500	193 //	406.5200
17 //	137.6600	76 //	332.7750	135 //	398.9900	194 //	406.6900
18 //	137.9700	77 //	332.8800	136 //	399.0000	195 //	407.2100
19 //	139.0000	78 //	339.0300	137 //	399.0150	196 //	407.9050
20 //	139.4000	79 //	339.1150	138 //	399.0250	197 //	410.1100
21 //	139.4500	80 //	339.2500	139 //	399.0300	198 //	410.1500
22 //	139.5850	81 //	339.4500	140 //	399.0400	199 //	410.1550
23 //	139.6000	82 //	340.7000	141 //	399.0450	200 //	410.1800
24 //	139.7000	83 //	344.7000	142 //	399.0500	201 //	410.2500
25 //	139.8750	84 //	350.1250	143 //	399.0550	202 //	410.3500
26 //	139.9000	85 //	361.8250	144 //	399.0600	203 //	410.9700
27 //	139.9400	86 //	365.0500	145 //	399.0650	204 //	411.0350
28 //	139.9600	87 //	365.6850	146 //	399.0850	205 //	411.3350
29 //	139.9700	88 //	366.1650	147 //	399.0950	206 //	411.8350
30 //	139.9750	89 //	367.4000	148 //	399.1100	207 //	412.4500
31 //	139.9800	90 //	368.0400	149 //	399.1150	208 //	412.7950
32 //	140.0000	91 //	368.0750	150 //	399.2000	209 //	412.8900
33 //	140.0100	92 //	368.8000	151 //	399.2125	210 //	416.3500
34 //	140.0500	93 //	389.6050	152 //	399.2250	211 //	417.3900
35 //	140.3500	94 //	390.6400	153 //	399.2375	212 //	418.5625
36 //	140.4500	95 //	390.6450	154 //	399.2500	213 //	423.3350
37 //	140.5000	96 //	393.6200	155 //	399.2625	214 //	423.9700
38 //	140.7650	97 //	393.6250	156 //	399.2750	215 //	428.6350
39 //	141.0000	98 //	395.7500	157 //	399.2875	216 //	429.0700
40 //	141.4500	99 //	396.4300	158 //	399.3900	217 //	429.5050
41 //	141.4800	100 //	396.4400	159 //	399.4000	218 //	431.8200
42 //	142.9000	101 //	396.6050	160 //	399.4050	219 //	433.0000
43 //	143.2050	102 //	396.8050	161 //	399.4300	220 //	433.1200
44 //	143.7800	103 //	396.8200	162 //	399.4450	221 //	440.1625
45 //	143.8500	104 //	397.2400	163 //	399.4500	222 //	441.1150
46 //	143.8800	105 //	397.2500	164 //	399.4550	223 //	442.4700
47 //	143.9100	106 //	397.5650	165 //	399.4625	224 //	442.8000
48 //	143.9400	107 //	397.6350	166 //	399.5150	225 //	442.9000
49 //	143.9500	108 //	397.7500	167 //	399.5750	226 //	443.6500
50 //	143.9700	109 //	397.9550	168 //	399.5900	227 //	444.1150
51 //	144.0000	110 //	398.0100	169 //	399.6050	228 //	444.2200
52 //	146.4450	111 //	398.0300	170 //	399.6150	229 //	444.8850
53 //	146.4550	112 //	398.0450	171 //	399.6400	230 //	445.6650
54 //	147.4000	113 //	398.0500	172 //	399.6500	231 //	453.7550
55 //	148.4700	114 //	398.0650	173 //	399.7050	232 //	459.8400
56 //	148.9250	115 //	398.1100	174 //	399.7150	233 //	808.4400
57 //	149.0000	116 //	398.1950	175 //	399.7500	234 //	959.6650
58 //	149.4500	117 //	398.2150	176 //	399.7750		
59 //	149.5050	118 //	398.2500	177 //	399.9100		

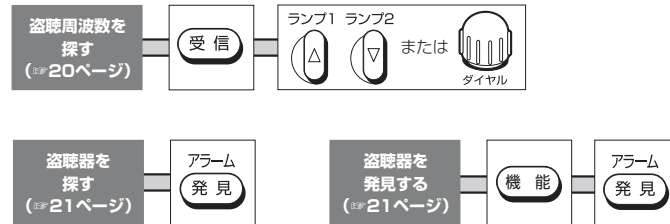
操作早見表の見かた

この操作早見表は、左側の操作項目から、右方向へ順に操作してください。操作の詳細については、参照ページをご覧ください。



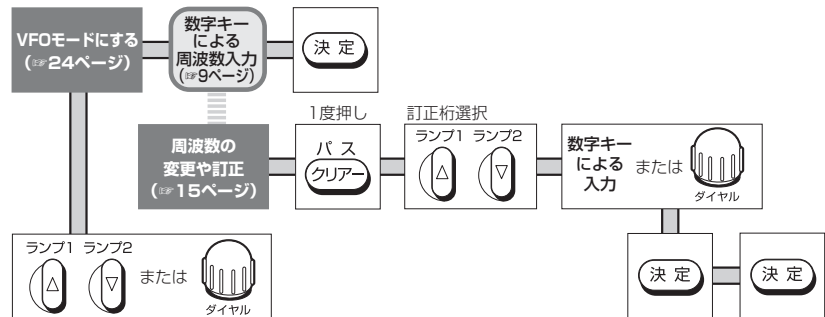
1 まずは使ってみよう

無線式盗聴器の探しかた



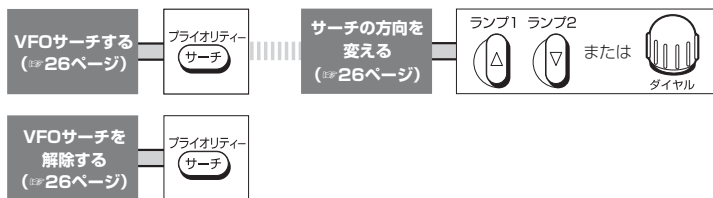
2 選局する

VFO モードで受信する

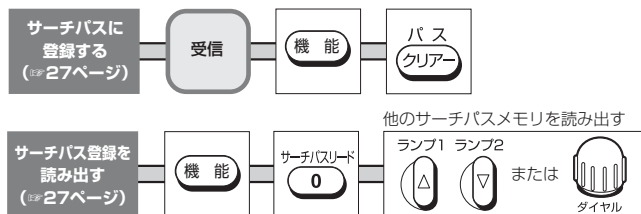


3 サーチモード

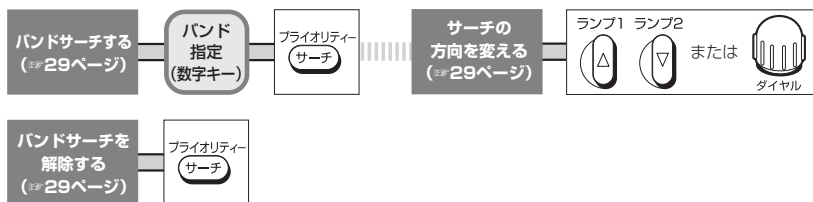
VFO サーチで受信する



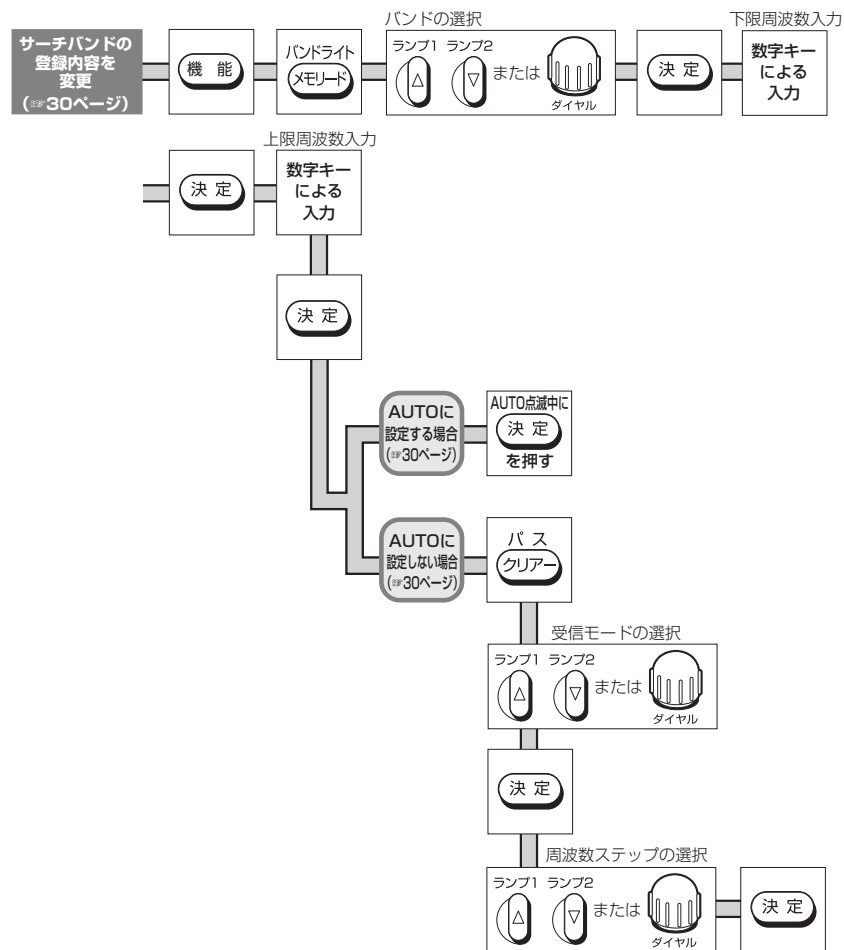
サーチパス登録



バンドサーチで受信する



サーチバンドの登録内容を変更する(バンドライト)

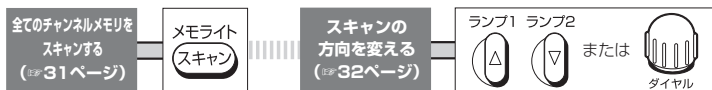


知っておきたいこと

知っておきたいこと

4 スキャンモード

スキャン



バンクスキャン

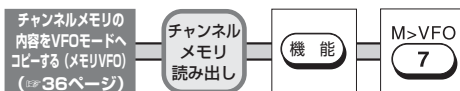
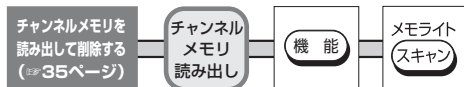
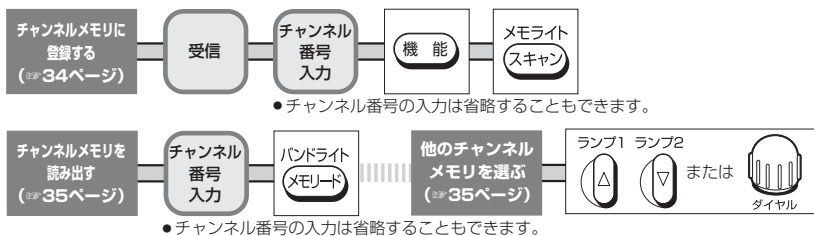


スキャンパス登録

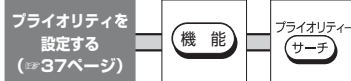
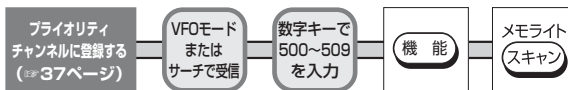


5 チャンネルメモリ登録

チャンネルメモリ登録



プライオリティ機能



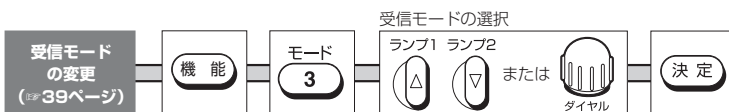
6 周波数ステップの変更

周波数ステップを変更する



7 受信モードの変更

受信モードを変更する

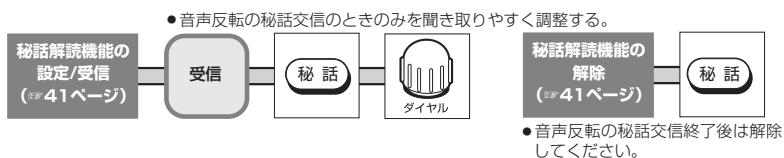


8 その他の機能

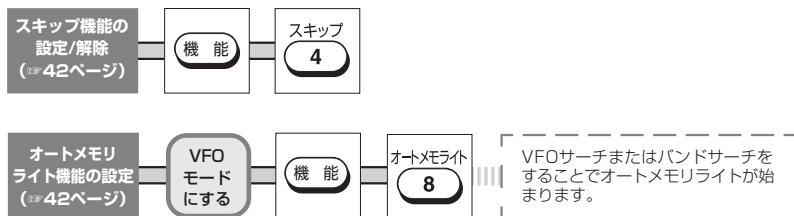
デュープレックス



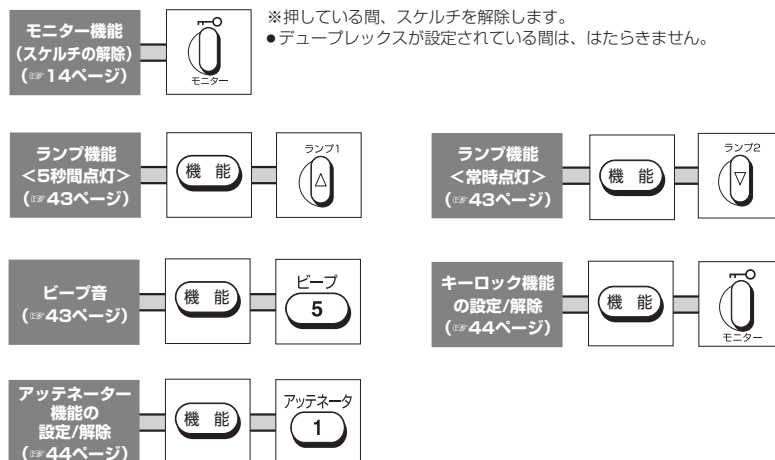
音声反転の秘話交信を聞く(秘話解読機能)



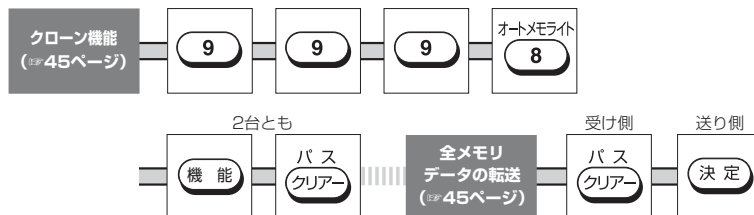
サーチやスキャンの付加機能



便利な機能を使う



クローン作成



本体初期化について



修理をご依頼になる前に、もう一度次のことをご確認ください。それでも異常や故障と思われるときは、お買い上げの販売店、またはユピテルご相談窓口にご相談ください。

症 状	原 因	処 置
ディスプレイに何も表示されない	電池が消耗している	電池を交換する(※ 13 ページ)
ときどき PCH が表示される	プライオリティ機能がはたらいている	プライオリティ機能を解除する(※ 37 ページ)
P 表示が点滅している	サーチパスメモリを読み出している	サーチパスリードを解除する(※ 27 ページ)
受信が途切れる	スケルチ調整が誤っている	スケルチ調整を正しく行う(※ 14 ページ)
	交信局の電波が弱い	モニターキーを押す(※ 14 ページ)
	アッテネーター機能がはたらいている	アッテネーター機能を解除する(※ 44 ページ)
正常な音声で受信できない	秘話解読機能が ON になっている	秘話解読機能を解除する(※ 41 ページ)
キーを押しても動作しない	キーロック機能が ON になっている	キーロック機能を解除する(※ 44 ページ)
周波数を入力できない	受信周波数範囲でない周波数を入力している	受信周波数範囲内の周波数を入力する
サーチができない	スケルチ調整が誤っている	スケルチ調整を正しく行う(※ 14 ページ)
	モニターキーを押している	モニターキーを離す(※ 14 ページ)
スキャンができない	スケルチ調整が誤っている	スケルチ調整を正しく行う(※ 14 ページ)
	モニターキーを押している	モニターキーを離す(※ 14 ページ)
	すべてのチャンネルメモリがスキャンパスに登録されている	スキャンパスの登録を解除する(※ 33 ページ)
	すべてのチャンネルメモリに何も登録されていない	チャンネルメモリに登録する(※ 34 ページ)
受信音が出ない	音量調整が誤っている	音量調整を正しく行う(※ 14 ページ)
受信中であるが、勝手に周波数やチャンネルメモリが切り替わる	スキップ機能が ON になっている	スキップ機能を解除する(※ 42 ページ)
モニターキーを押すと周波数が変わる	デュープレックスが ON になっている	デュープレックスを解除する(※ 40 ページ)
ダイヤルツマミを回しても周波数が変わらない	秘話解読が ON になっている	秘話解読機能を解除する(※ 41 ページ)

受信周波数範囲(MHz)	: 108 ~ 170MHz、300 ~ 470MHz、806 ~ 1000MHz
受信モード	: FM、AM、AUTO
周波数ステップ(Hz)	: 5k、6.25k、10k、12.5k、25k、AUTO
受信感度	FM : SINAD 12dB 時 0.5 μ V 以下
	AM : S/N 10dB 時 0.7 μ V 以下
チャンネルメモリ数	: 500ch(408ch 登録済み)
盗聴周波数登録数	: 234ch
サーチパスメモリ数	: 100ch
プライオリティチャンネルメモリ数	: 10ch
バンクメモリ数	: 10BANK
チャンネル数 / 1 バンク	: 50ch/BANK
バンドメモリ数	: 10BAND
サーチスピード	: 30STEP/sec
スキャンスピード	: 30ch/sec(最大)
アンテナインピーダンス / 型式	: 50 Ω / BNC
電源	: 4.5V(アルカリ乾電池 単 3 $\times$ 3 本) 外部電源 (AC アダプター : AC100V/ カーバッテリー : DC12V)
低周波出力	: 90mW 以上(4.5V 8 Ω /THD10%)
消費電流(4.5V 時)	最大出力時 180mA(標準)
	待ち受け時 60mA(標準)
動作保証温度範囲	: 0 $^{\circ}$ C ~ 50 $^{\circ}$ C (AC アダプター : 0 $^{\circ}$ C ~ 40 $^{\circ}$ C)
外形寸法	: 60.0(W) $\times$ 120.0(H) $\times$ 32.0(D)mm
	(突起部含まず)
重量	: 約 290g(付属アンテナ、電池を含む)
付属品	: フレキシブルアンテナ、AC アダプター、ベルトクリップ、取扱説明書(保証書含む)
	: シガープラグコード(OP-5)2,100 円 + 税
オプション	

※製品改良のため、仕様および外観の一部を予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

■保証書

保証書は、必ず「販売店名・お買い上げ年月日」などの記入をお確かめのうえ、販売店からお受け取りいただき、保証内容をお読みになられたあとも、大切に保管ください。

■保証期間

お買い上げの日から 1 年間です。

■修理を依頼されるとき

「故障かな?と思ったら」の点検をしていただいても、なお異常があるときは・・・

●保証期間中のとき

恐れ入りますが、お買い上げの販売店まで保証書を添えて製品をご持参ください。保証書の規定にしたがって修理いたします。

●保証期間が過ぎているとき

お買い上げの販売店にまずご相談ください。お客様のご要望により有料修理いたします。なお、故障状況は、なるべく詳しくご連絡ください。

※ 点検や修理の際、設定内容やデータが消去される場合があります。必ずお客様ご自身で事前に控えを残しておいていただきますようお願いいたします。

※ 修理期間中の代替機の貸し出しは行っておりません。あらかじめご了承ください。

アフターサービス等についてご不明の点は

ユピテルご相談窓口

お問い合わせの際は、製品の機種名をご確認のうえ、使用状況もいっしょにご相談ください。

- 下記窓口の名称、電話番号、所在地は、都合により変更することがありますのでご了承ください。
- 電話をおかけになる際は、番号をお確かめのうえ、おかけ間違いのないようご注意ください。
- 紛失等による同梱品の追加購入や別売品の購入につきましては、お買い上げの販売店にご注文ください。

故障相談や取扱方法などに関するお問い合わせ

受付時間 9:00 ~ 17:00 月曜日～金曜日
(祝祭日、年末年始等、当社指定期間を除く)

お客様ご相談センター



0120-998-036

<無料修理規定>

- ① 本書記載の保証期間内に、取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書にしたがった正常なご使用状態で故障した場合には、無料修理いたします。
- ② 保証期間内に無料修理を受ける場合には、製品と本書をご持参のうえ、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。
- ③ ご転居ご贈答品などで本保証書に記載してあるお買い上げの販売店に修理が依頼できない場合には、ユピテルご相談窓口へご連絡ください。
- ④ 保証期間内でも次の場合は有料修理となることや修理不可能となる場合があります。
 - (イ) 使用上の誤り、または不当な修理や改造などによる故障および損傷
 - (ロ) お買い上げ後の移動、輸送、落下などによる故障および損傷
 - (ハ) 火災、地震、水害、落雷その他の天災地変、公害、指定外の使用電源(電圧、周波数)や異常電圧による故障および損傷
 - (ニ) 特殊な条件下での結露や汚れなどによる故障および損傷
 - (ホ) 故障の原因が本製品以外にある場合
 - (ヘ) 消耗部品に類するものの交換
 - (ト) 本書のご提示がない場合
 - (チ) 本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書き換えられた場合
- ⑤ 本書は、日本国内のみに有効です。
This warranty is valid only in Japan.

故障内容

※ 本書は、紛失しないよう大切に保管してください。
※ この保証書は、本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。したがってこの保証書によって、お客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理についてご不明の点は、お買い上げの販売店または、ユピテルご相談窓口にお問い合わせください。